

ハーレー・ダビッドソンFLH1200《ポリスタイブ》

# Harley-Davidson®

FLH1200

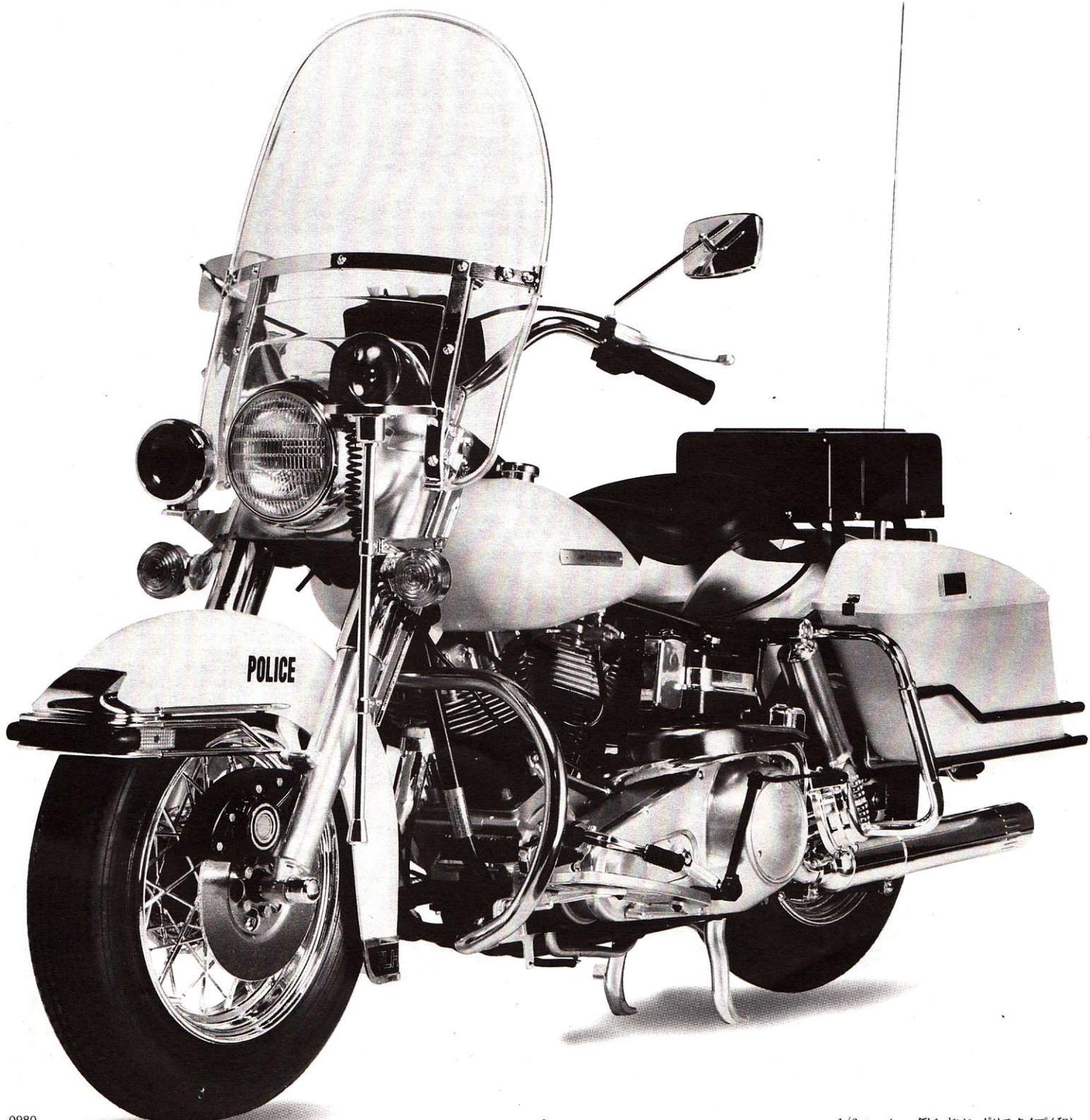
# POLICE BIKE

**1:6 SCALE**

SUPER DETAILED V-TWIN ENGINE  
COIL SPRING WORKING FRONT & REAR SUSPENSION  
SUPER DETAILED SEMI-PNEUMATIC RUBBER TYRES  
PLENTIFUL METAL PARTS

**BIG i6** ★★

**TAMIYA**  
TAMIYA PLASTIC MODEL CO.  
3-7 ONDWARA, SHIZUOKA-CITY, JAPAN.



# Harley-Davidson®

## FLH1200

# POLICE BIKE



アメリカの広大な国土。そして、どこまでも伸びるよく整備されたフリーウェイ。ここで活躍する白バイは、やはりハーレー・ダビッドソンFLH1200エレクトラ・グライドをおいて他にないと言えるでしょう。それは、何よりもアメリカを象徴するオートバイであり、また、ヨーロッパや日本製のオートバイのようにワインディングロードを人車一体となって駆け巡る喜びを得るためのマシンではなく、大型の風防、クッションのよいたっぷりしたサイズのサドルシート、大がらな車体や余裕のあるエンジンに象徴されるように、それは、よく整備された道路を、長時間、快適に走行するために作られたオートバイであると言え、アメリカのよく整備されたフリーウェイ網があってこそ、このようなエレクトラ・グライドが育てられてきたと言えるものだからです。

### ハーレー・白バイの始まり。

ハーレー・ダビッドソンの第1号車は、1901年、ミルウォーキーの4人の若者、ウィリアム・A・ダビッドソン、ウォルター・ダビッドソン、セニア、アーサー・ダビッドソン、そしてウィリアム・S・ハーレーによって製作されました。そして彼らは、1903年には、ワークショップを開き、1906年には、ハーレー・ダビッドソン・モーター・カンパニーを設立、この年にはすでに150台のハーレーが生産されるまでの規模となっていました。世界最初の自動車、そしてオートバイが作られたのは19世紀も末頃であり、アメリカにおいて自動車一般に広く普及するのは、1908年のフォード・モデルTの登場を待たなければなりません。当然のことながら、この当時は自動車、オートバイの普及は少なく、交通整理、交通関係法令も不要の時代でした。もちろん、ハーレーのオートバイが、警察用に使われることもなかったのです。しかし、ハーレーの白バイが姿を見せるのは、それほど先のことではありませんでした。アメリカおよびそれ以外の国々における初期のハーレーの警察用としての使用に関する記録は完全なものではありませんが、1912年またはそれ以前にアメリカでハーレーのオートバイが警察用として使われていた記録が残っています。さらに1914年には、イリノイ州オークパーク警察が、3名の隊員から成るオートバイチームを編成し、これを日常勤務につかせていました。また、この時期は、新生ハーレー社が、その地位を着々と固めつつあった時でした。1909年にはハーレー初のVツインエンジン付きのモデルを発表。1913年には、排気量35立方インチ、出力5馬力のモデルを設立9年目を記念して9A、9Bとい

たシリーズで発表しました。当時、イギリス製のイミテーションが主であったアメリカのオートバイの中で、ハーレーの技術と品質の高さは、先発メーカーのインディアンと共に好評で迎えられることになったのです。そして、さらに3速トランスミッション、前輪ブレーキの採用など、1910年代のハーレーは次々と新しい技術を探り入れていったのです。1914年に始まった第1次大戦は、ハーレーにとって願ってもない飛躍のチャンスでした。ヨーロッパのオートバイメーカーは、すべて軍需品の生産を余儀なくされ、ハーレーはシニアを大幅に伸ばすことになったのです。また1917年、アメリカの参戦によってハーレーは軍用モデルの生産も手がけるようになり、民間型とあわせて生産数は約18000台と急上昇したのです。大戦が終了した後も、ハーレーのオートバイは好評でした。大戦中、軍用ハーレーは各国で使われましたが、その品質、性能が世界のオートバイファンに印象づけられたためか、1920年代から多くのハーレーが輸出されるようになったのです。

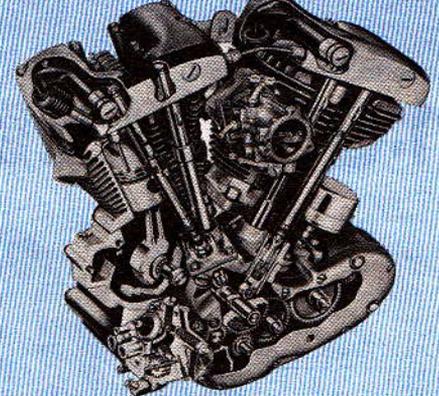
ハーレーのオートバイは、この時までには、すでに多くの警察で使われていました。しかし、それらは市販の民間モデルそのままであったようです。ハーレー社の記録によると、初めて警察用として同様のオートバイが用意されたのは、1921年のことで、それはVツインエンジン・排気量74立方インチ(1200cc)のハーレーJD型であり、今日のハーレーの白バイの前身となったのです。とはいえ、この時代、1920年代初期の警察用ハーレーは、ガソリンタンクの右側に救急箱が取り付けられていたことを除いて、外観上は民間用モデルと極めてよく似たものでした。

### FLH1200エレクトラ・グライド

FLH1200エレクトラ・グライドは、ハーレーダビッドソン社が生産するオートバイの代表的モデルであり、また最も歴史の古いモデルです。それは、1941年に発表された排気量74立方インチOHV・Vツインモデルが原型で、年を追って改良が加えられ、現在のエレクトラ・グライドに至っています。このため、エレクトラ・グライドは、眼をみはらせるような新しいメカニズムも持たなければ、性能的に特に目ざましいものを持っているとも言えないようです。しかし、長時間にわたって熟成されてきたかゆえの安定した品質、高度な耐久性が何よりの特徴となっているのです。

フレームは、強固なダブル・クレードルタイプ。エンジンは狭角60度Vツインで排気量1207cc。2つのシリンダーが前後に並んだ形でマウントされます。ボアは、87.3mm、ストロ

ーク100.8mmの超ロングストローク型で、圧縮比は8:1と低く、66BHP/5600rpmと出力も控え目な数字となっています。これは、明らかに耐久性と扱いやすさを重視した設計のエンジンと言えるでしょう。クラッチは乾式多板、ミッションは前進4段で、ギヤーボックスはエンジンと別体になっており、これがまたハーレーのエンジンまわりに吉めかしい印象を加えています。ブレーキは、前後輪とも油圧作動のディスク・ブレーキ、タイヤは、



フロント、リヤ共に小型乗用車なみの幅12cm以上もあるものが装着されます。

エレクトラ・グライドには、すべての部分にあつて十分な余裕が見込まれ、その結果、総重量は320kg以上に達し、加速の点についても0-400m加速14.7秒と、必要にして十分な性能であることも事実なのです。またすぐれた高速安定性、大がらなボディによる精神的な安心感もエレクトラ・グライドの美点の1つに数えることができるでしょう。大型の風防、そしてクッションの良いシートによる疲労の軽減に役立っていることを見逃せません。そして、出力を低くおさえた超ロングストローク・エンジンから生み出されるねばり強い低速からの強いトルク。これらの点がエレクトラ・グライドを、苛酷な使用が要求される白バイに最適なマシンとしていると言えるでしょう。

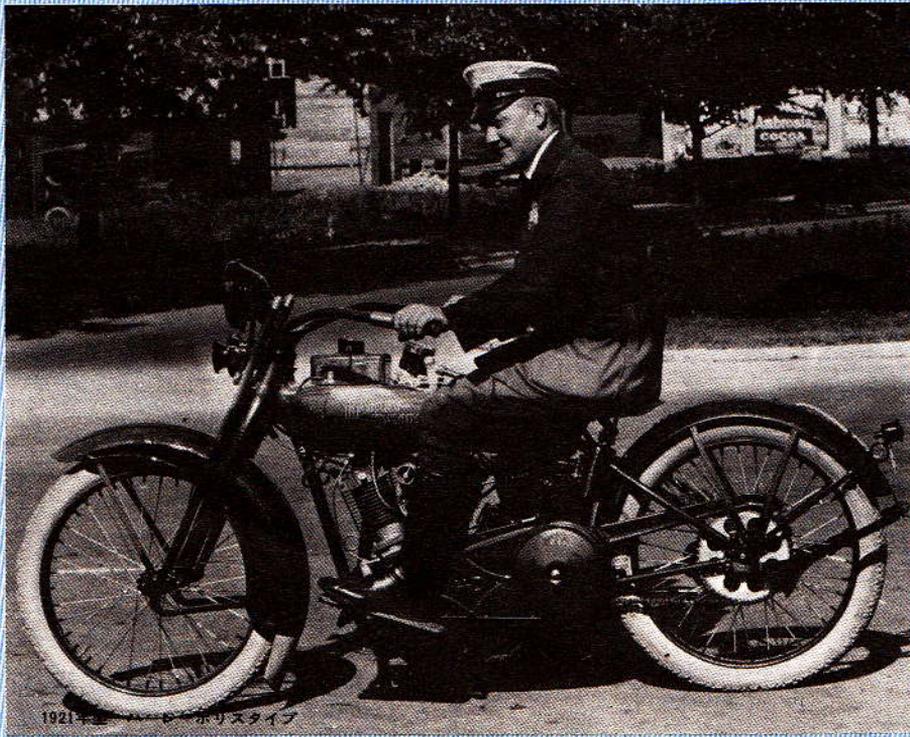
### エレクトラ・グライド・ポリスタイプ。

現在、エレクトラ・グライドのポリスタイプは次の四種が生産されています。

- FLHF ・高圧縮比・ソロ・足動チェーン。
- FLH ・高圧縮比・ソロ・手動チェーン。
- FLF ・低圧縮比・ソロ・足動チェーン。
- FL ・低圧縮比・ソロ・手動チェーン。

この中で最も多く使われているのがFLHF1200とFLH1200です。なお、FLF、FLの2種は、エンジンの圧縮比を通常の8:1から7.25:1に下げたものです。これらのポリスタイプは、基本的には同一で、警察用装備が追加されます。まず、灯火類では、回転式自動点滅灯と追跡灯。これらは、赤または青色で、回転式自動点滅灯はフロント、フェンダーの横に取りつけられ、伸縮マストによって高さが調節できます。追跡灯は、ヘッドライトの横につけられることが多いようです。サイレンは、機械式のもので、動力はリヤのタイヤから取り出し、足動ペダルによって回転が断続されます。無線機は、ジェネラル・エレクトリック製かモトローラ製で、サドルバック、荷台などにおかれます。その他、スピードメーターなど多くの装備品があり、特製ヘルメット、特製ジャケット、マーキング用のスティックさえ、用意されています。ポリスタイプの装備は、これらの豊富な装備品から選ばれるわけですが、アメリカ国内においても、州によってその装備品、装備方法はかなり異なっています。

ハーレー・ダビッドソンFLH1200エレクトラ・グライドは、たしかに路上を走っている最も高性能なオートバイとは言えないでしょう。しかし、無類の耐久性と絶大な信頼性を持ちまた整備の必要性が少ないことは確かであり、それらが、すぐれた高速安定性、ねばり強く扱いやすいタフなエンジンなどの長所と共に、エレクトラ・グライドが、世界各国の警察でパトロール、護衛、追跡などの任務に広範囲に使われている理由となっているのです。



1921年製ハーレーポリスタイプ



作る前にかならず  
お読み下さい。

★お買い求めの際、また組立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組立てを始められた後は、製品の返品、交換などには応じかねます。★このセットには接着剤が含まれていません。接着にはプラスチックモデル用接着剤、タミヤセメントを別にお求め下さい。

★キットの組立てに入る前に、あらかじめ説明文をよく読んで下さい。

★ニッパー、ピンセット、ナイフ、ドライバー等の工具を用意して下さい。

★メッキ部品を接着する時は、必ず接着面のメッキをはがして下さい。

●これは塗装指示のマークです。

●組立図中とP17のペインティングに塗装指示がしてあります、又ページごとのペインティングを参考にして塗装を楽しんで下さい。

★塗料は、必ずプラスチックモデル用塗料をお使い下さい。

●組立図中の青く印刷されている所は、接着部分です。

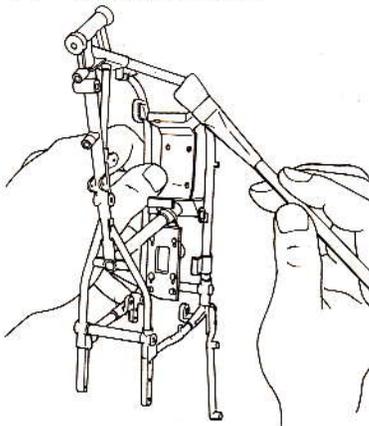
## PAINTING

《塗装するポイント》

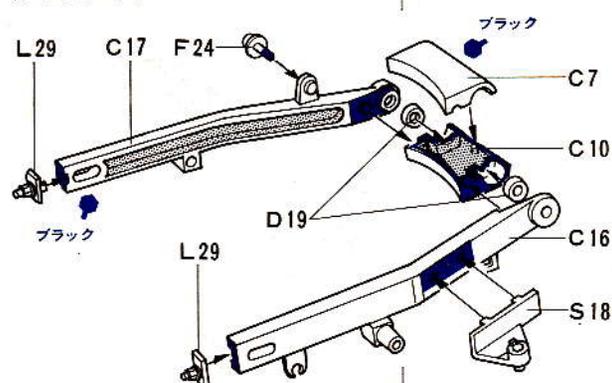
同じ色に塗る部品は出来るだけ組立ててから塗装するのがコツです。接着剤のはみだし、合せ目のくいはよくヤスリをかけてから塗装します。小さなビス1本にまで気をくばして下さい。すばらしい完成をお約束します。

《フレームの塗装》

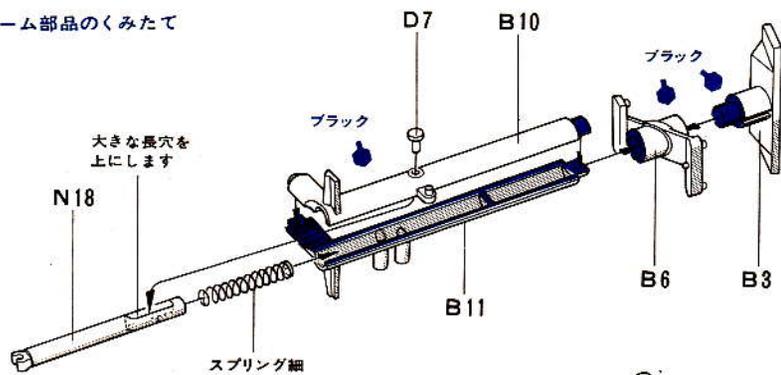
黒い部品に黒い色を塗ります。ていねいに塗り残しのないように、半分づつフレームを塗装して下さい。



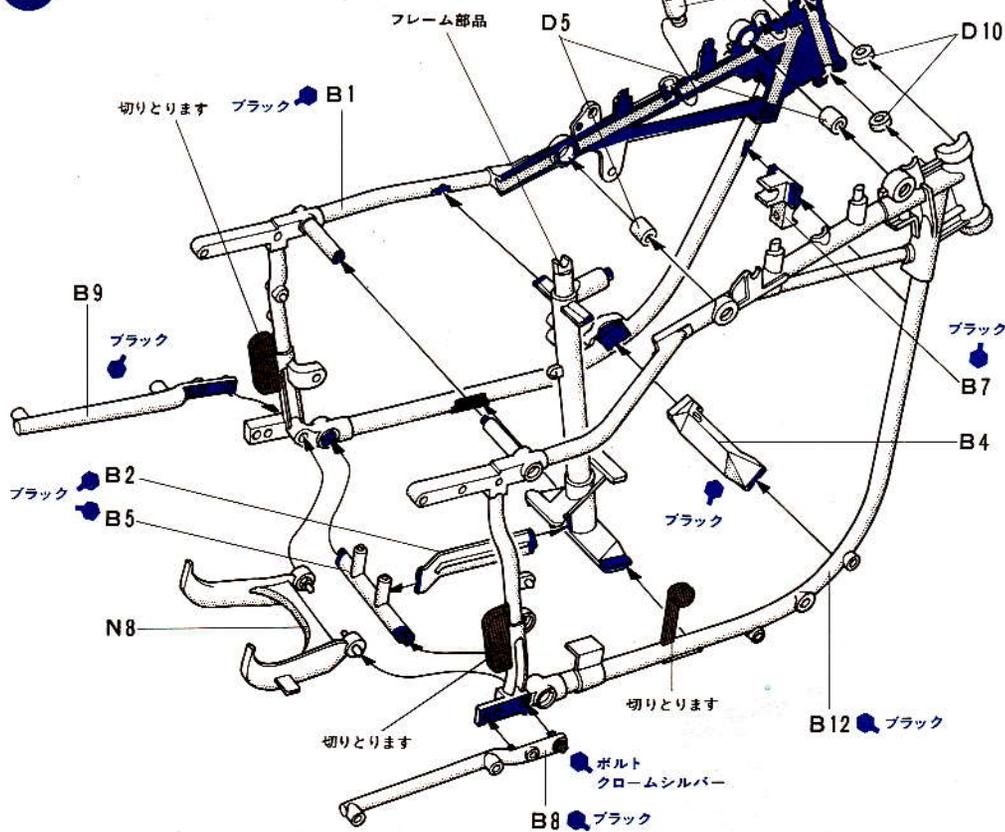
《リヤフォーク》



### 1 フレーム部品のくみため

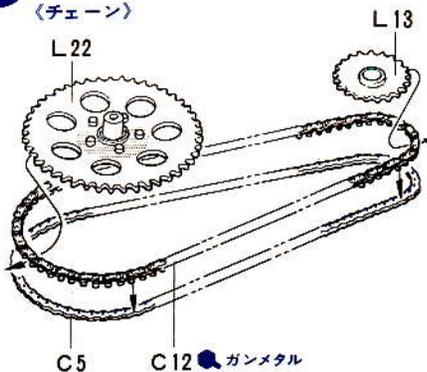


### 2 フレームのくみため

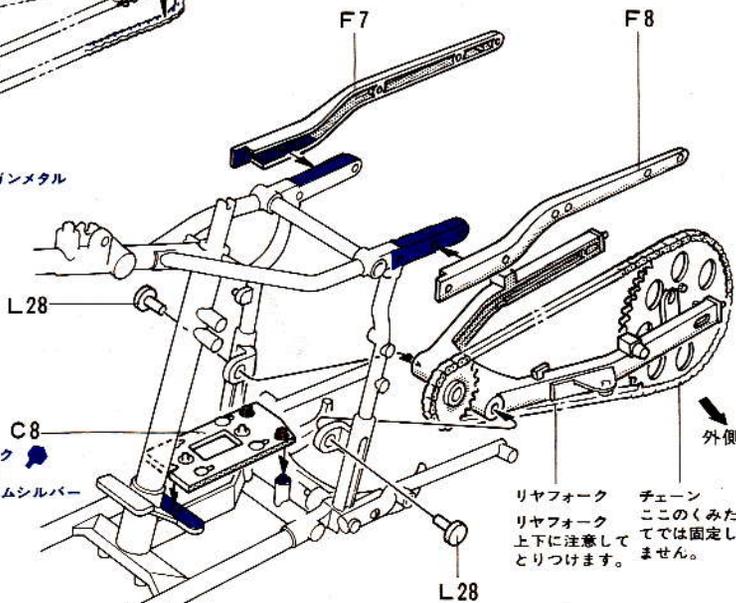
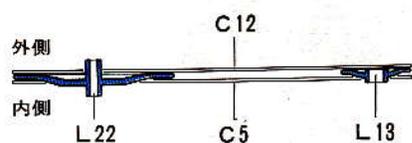


### 3 チェーンのくみためととりつけ

《チェーン》



《チェーンのくみため参考図》

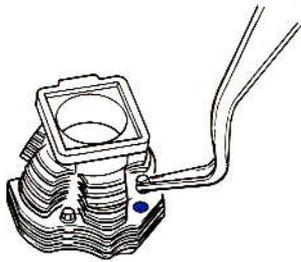


リヤフォーク  
リヤフォーク  
上下に注意して  
とりつけます。

チェーン  
このくみ  
たてでは固定し  
ません。

《部品の接着》

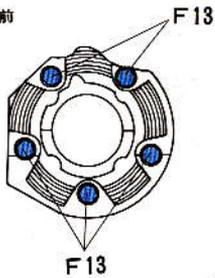
★細かい場所での作業はピンセットを使用するときれいに仕上がります。



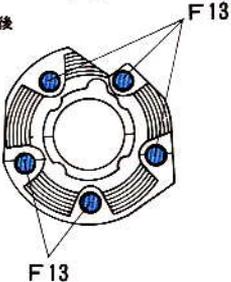
5 《シリンダーのくみため》

《F13の接着》

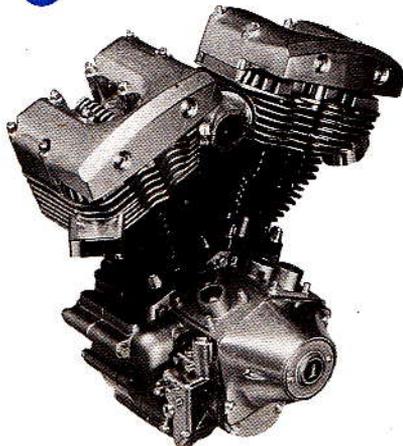
シリンダー前



シリンダー後



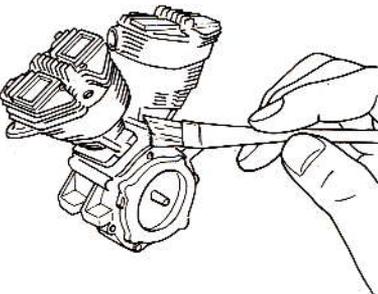
7 《エンジンのくみため》



PAINTING

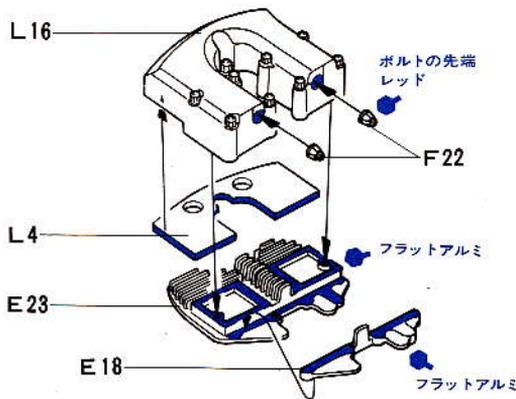
《エンジンの塗装》

指定された色で塗装します。毛先のかたい筆を使ってこすりつけるように塗るとよいでしょう。

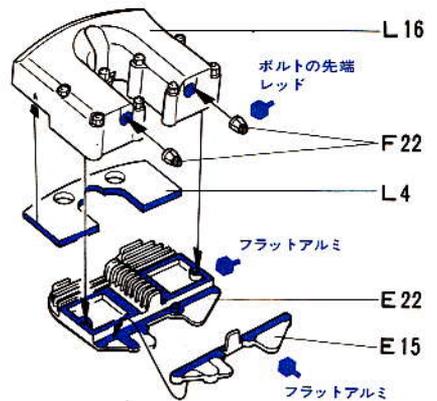


4 タペットカバーのくみため

《タペットカバー前》

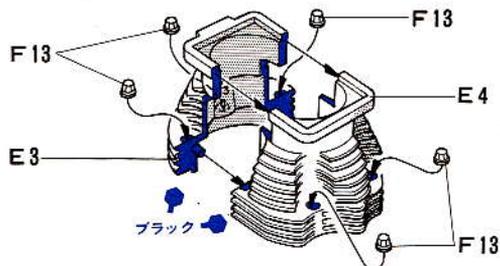


《タペットカバー後》

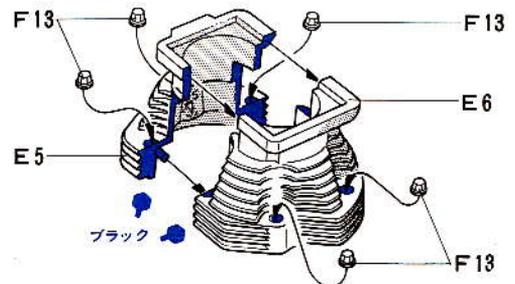


5 シリンダーのくみため

《シリンダー前》

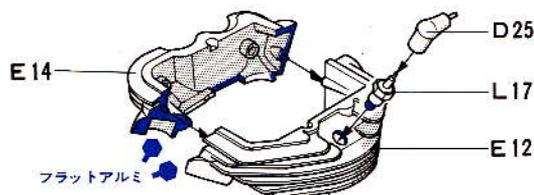


《シリンダー後》

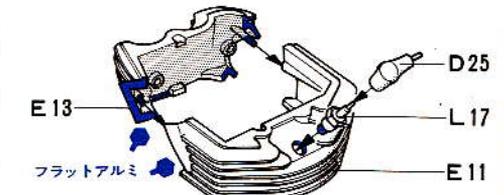


6 シリンダーヘッドのとりつけ

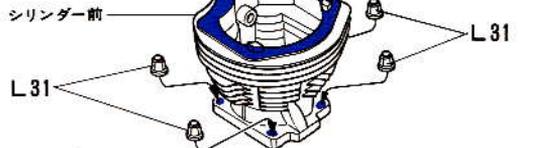
《シリンダー前》



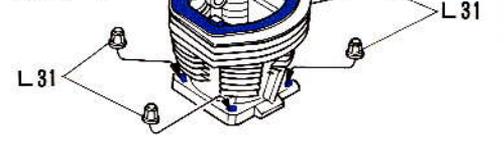
《シリンダー後》



シリンダー前

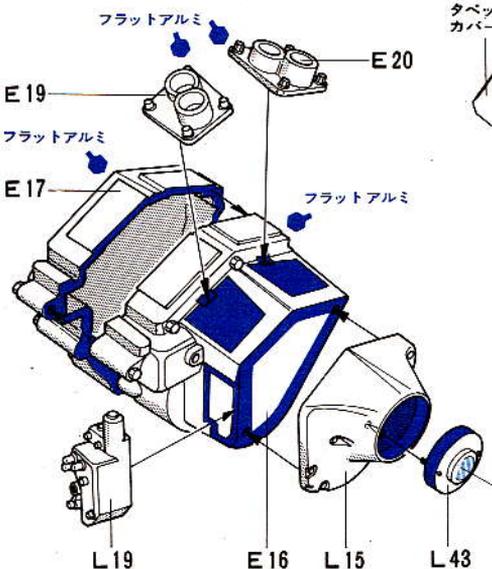


シリンダー後

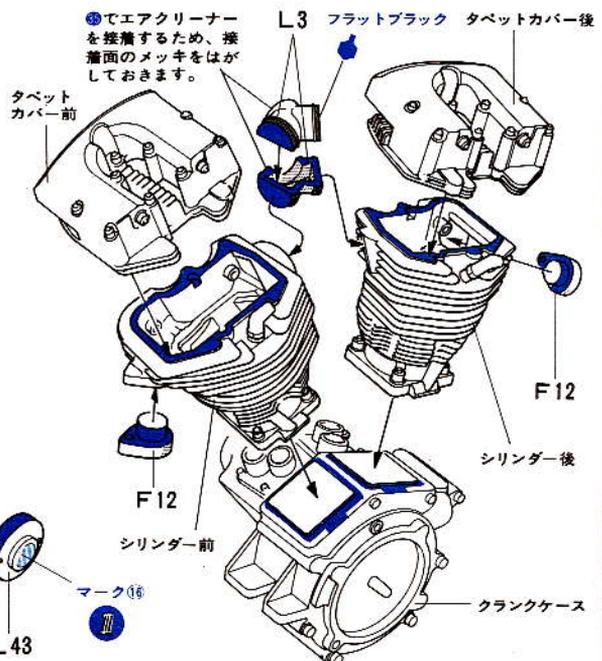


7 エンジンのくみため

《クランクケース》



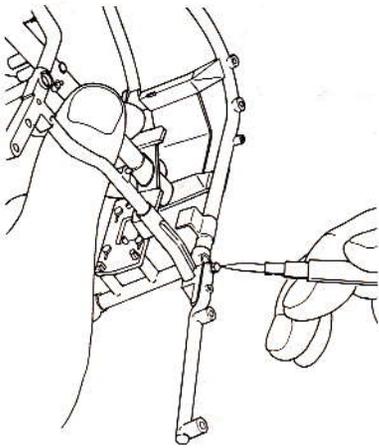
④でエアクリーナーを接着するため、接着面のメッキをはがしておきます。



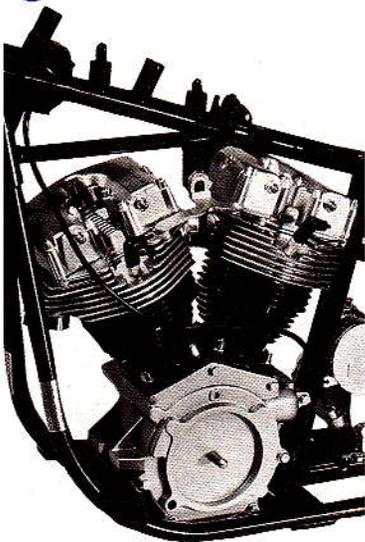
# PAINTING

## 《ボルトの塗装》

フレームやエンジンに使われているボルトはすべてクロームシルバーです。全体のアクセントとなりますから、いねいに塗装して下さい。

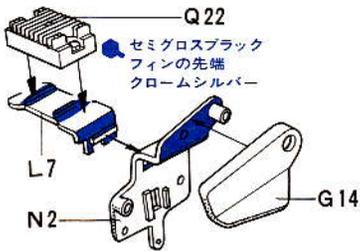


## 9 《エンジンのとりつけ》

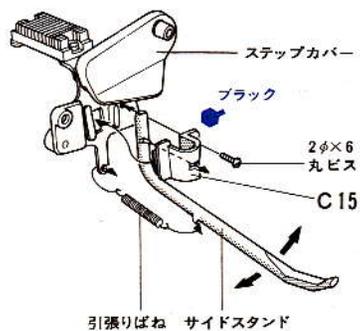


## 10 《サイドスタンド》

《サイドスタンドのくみため》  
《ステップカバー》

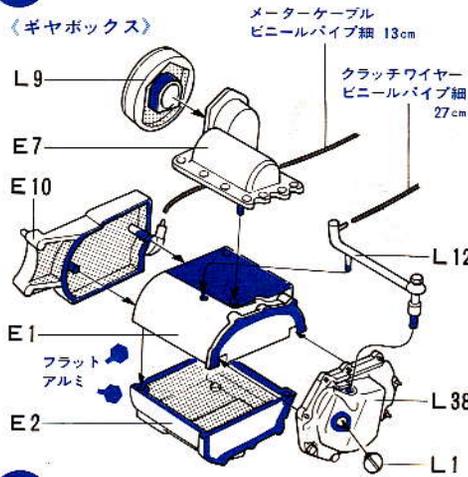


《サイドスタンド》

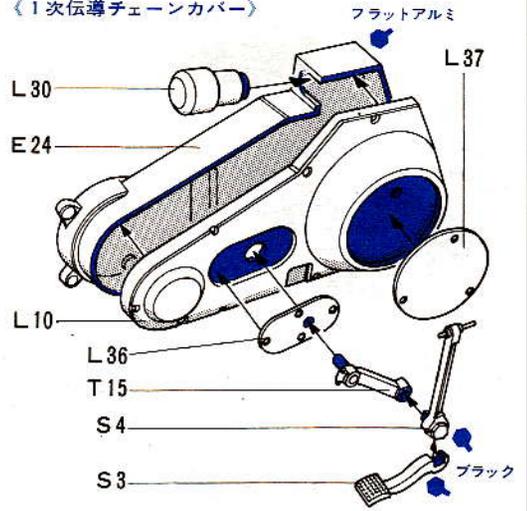


## 8 動力伝達部品のくみため

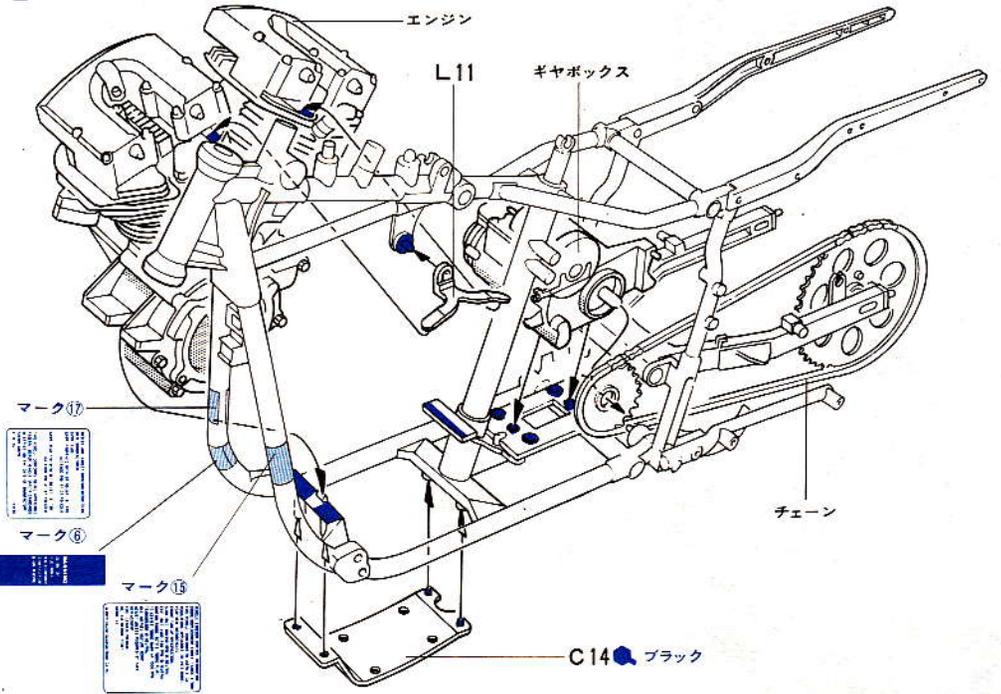
《ギヤボックス》



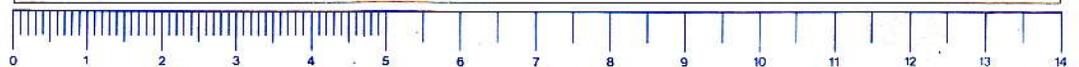
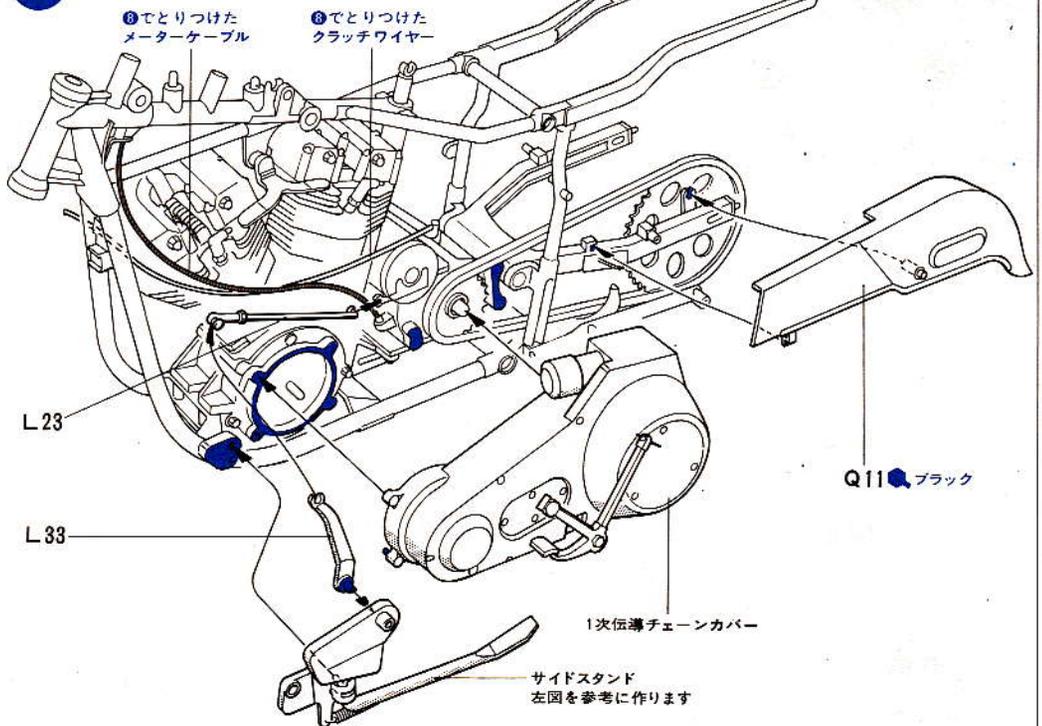
《1次伝導チェーンカバー》



## 9 エンジンのとりつけ



## 10 サイドスタンドのとりつけ

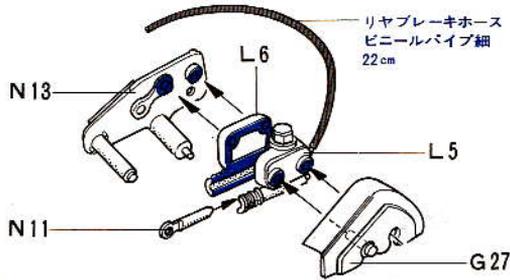


11 〈リアブレーキペダルのくみたて〉

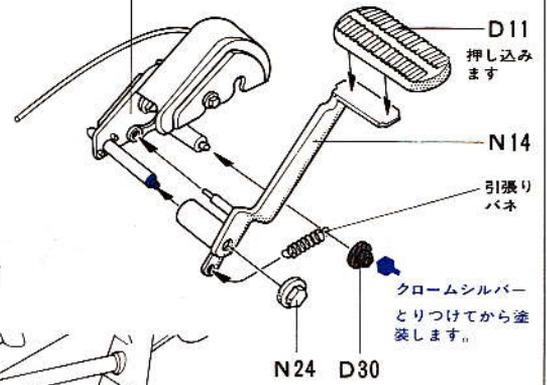


11 リアブレーキペダルのくみたて

〈リアブレーキシリンダー〉

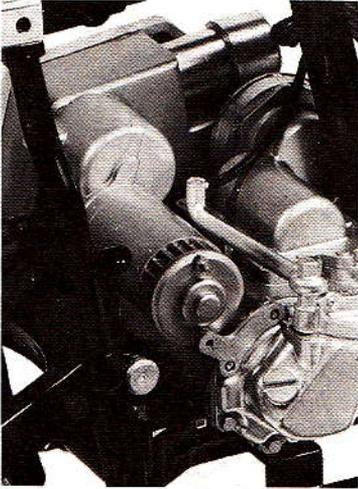


リアブレーキシリンダー

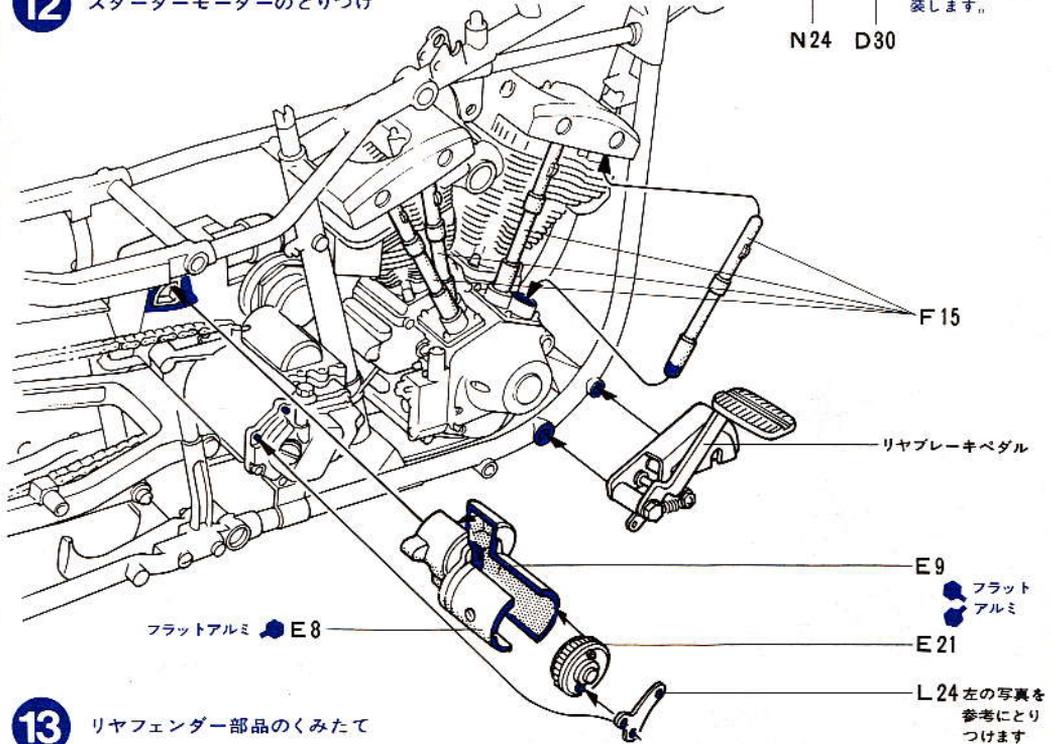


12 〈スターターモーターのとりつけ〉

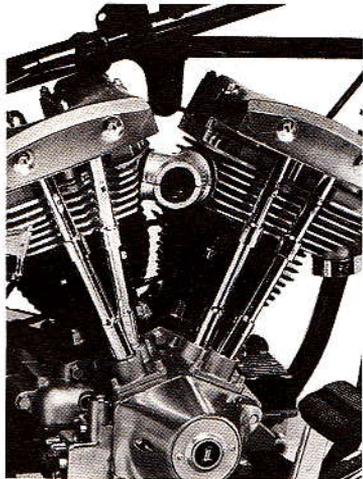
〈スターターモーターとL24のとりつけ〉



12 スターターモーターのとりつけ

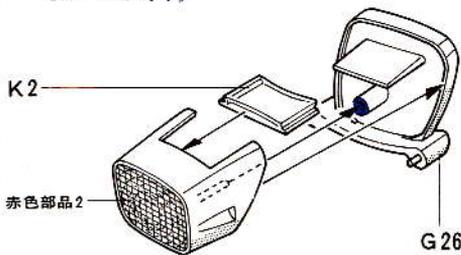


〈プッシュロッドF15のとりつけ〉

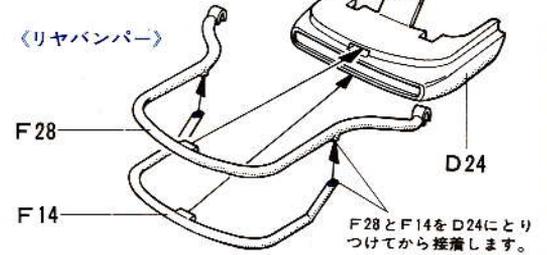


13 リアフェンダー部品のくみたて

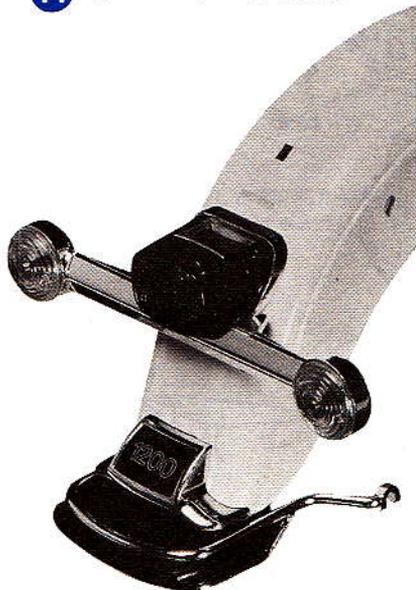
〈テールライト〉



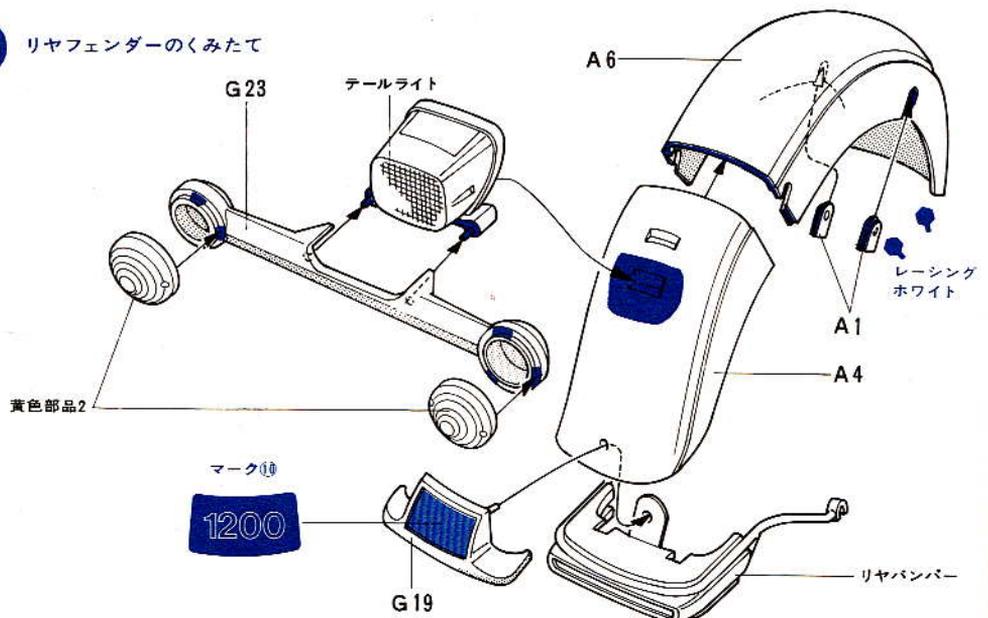
〈リアバンパー〉



14 〈リアフェンダーのくみたて〉



14 リアフェンダーのくみたて



15 《オイルタンクのくみたて》

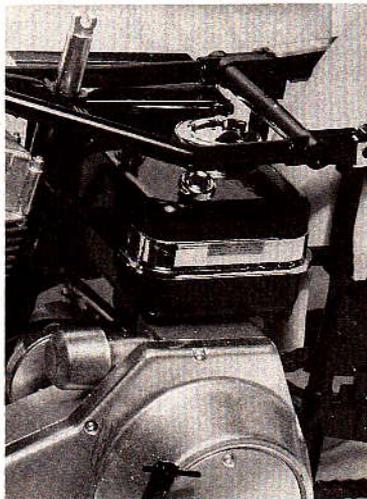
《オイルタンク》



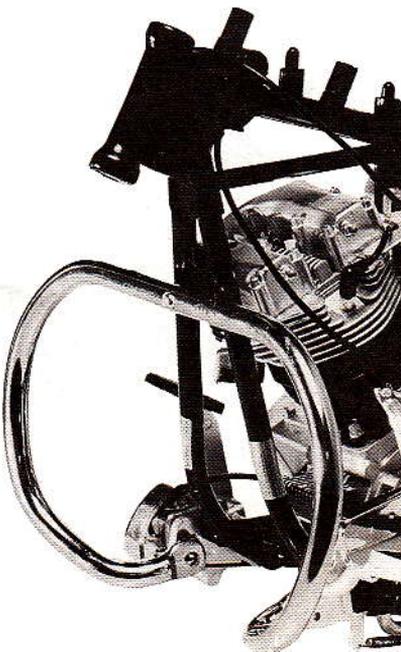
《バッテリー》



16 《リヤフェンダーのとりつけ》

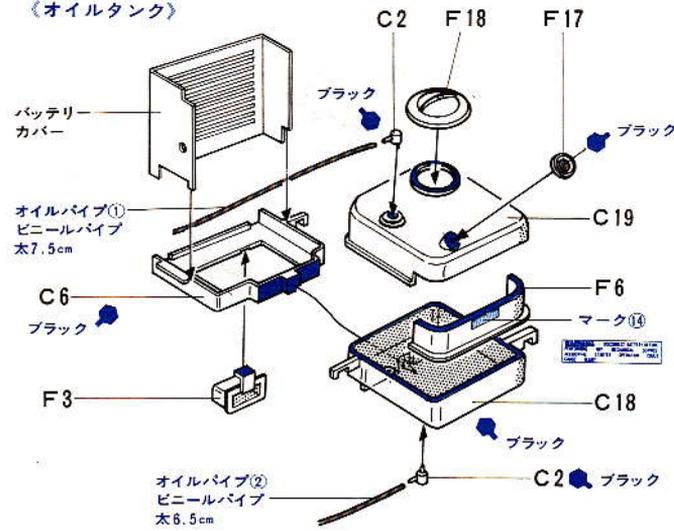


17 《セフティガードのとりつけ》

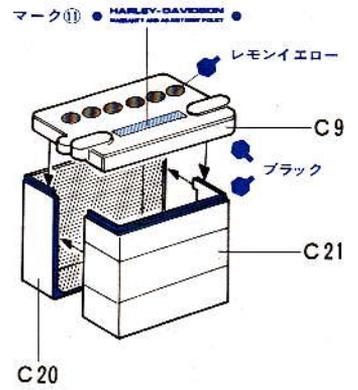


15 オイルタンクのくみたて

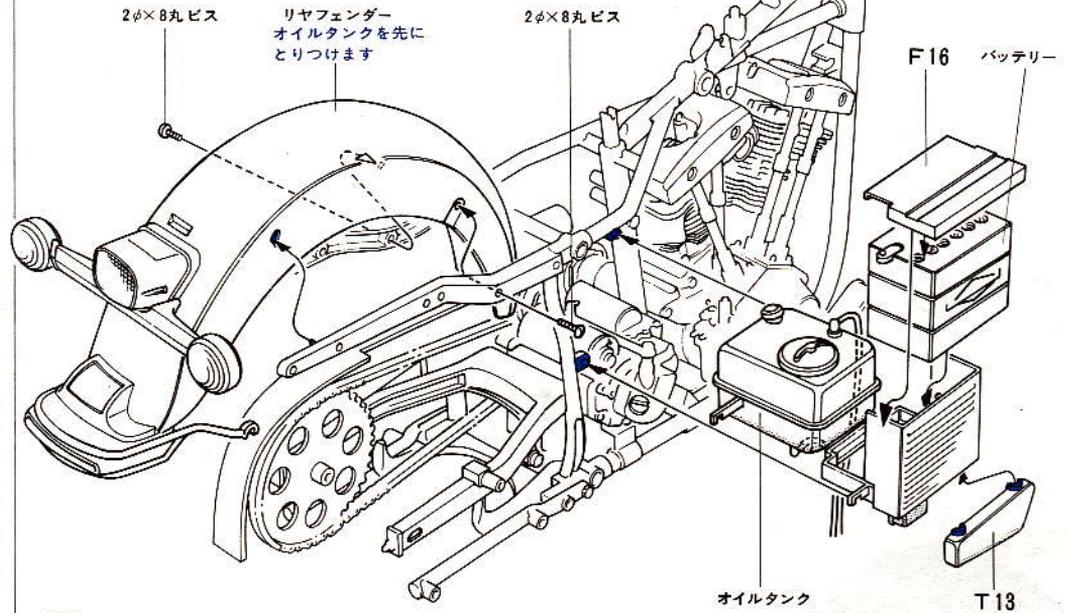
《オイルタンク》



《バッテリー》

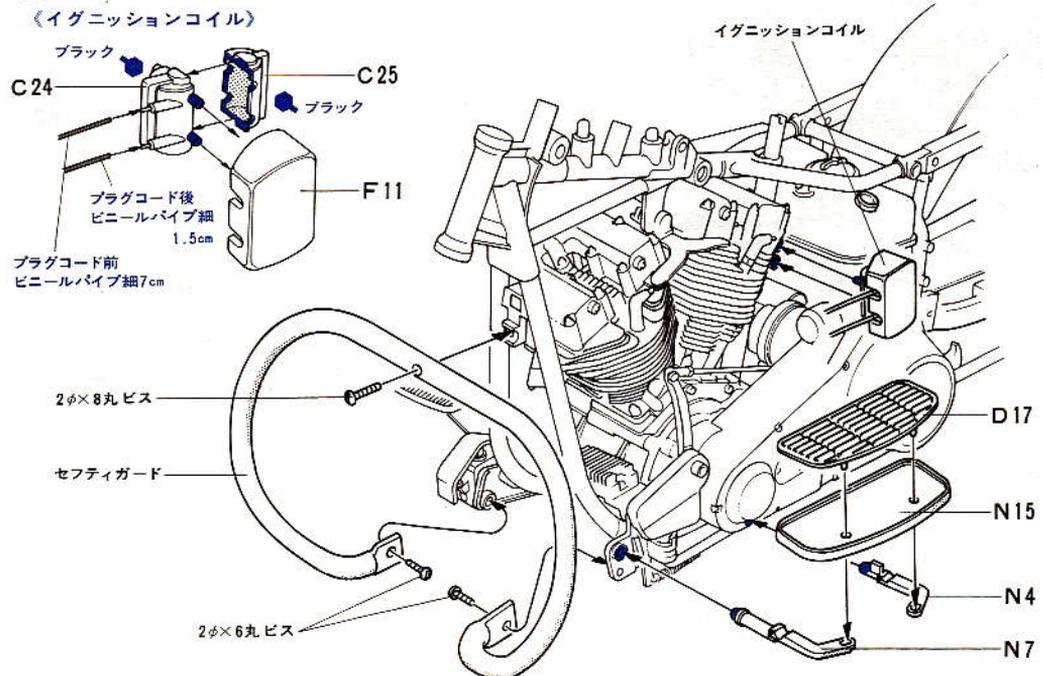
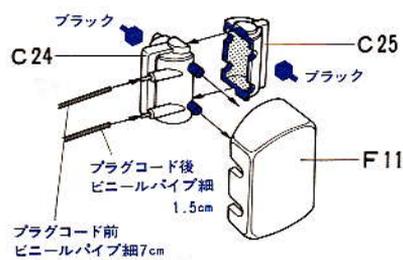


16 リヤフェンダーのとりつけ



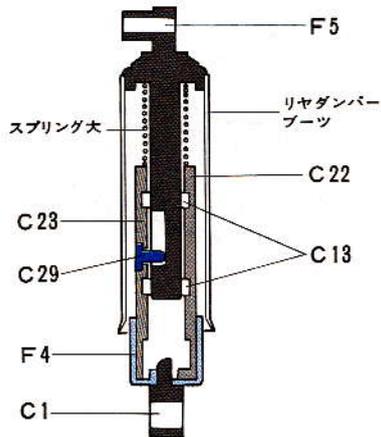
17 セフティガードのとりつけ

《イグニッションコイル》



18 <リヤダンパーのくみため>

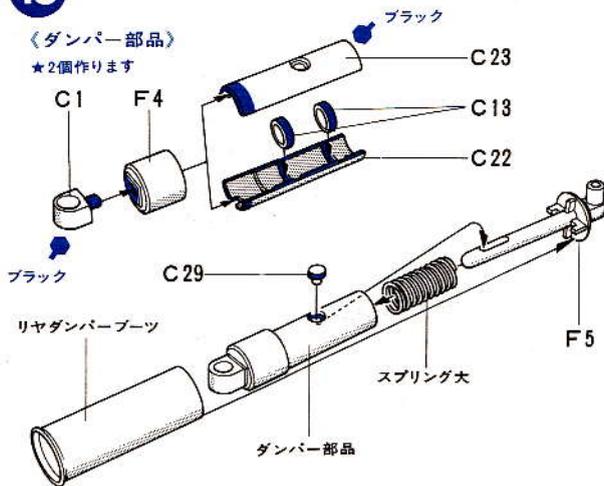
<リヤダンパー断面図>



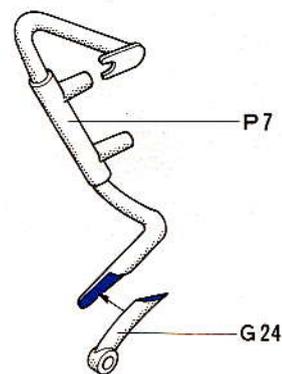
18 リヤダンパーのくみため

<ダンパー部品>

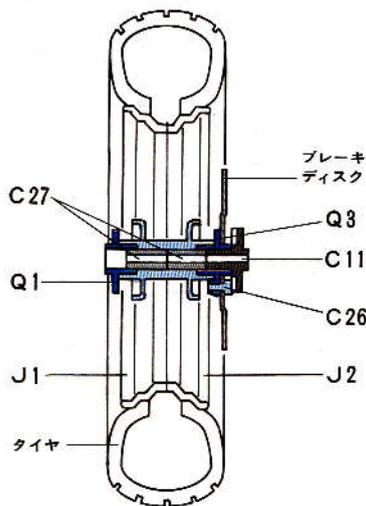
★2個作ります



19 サイドバンパー右のくみため



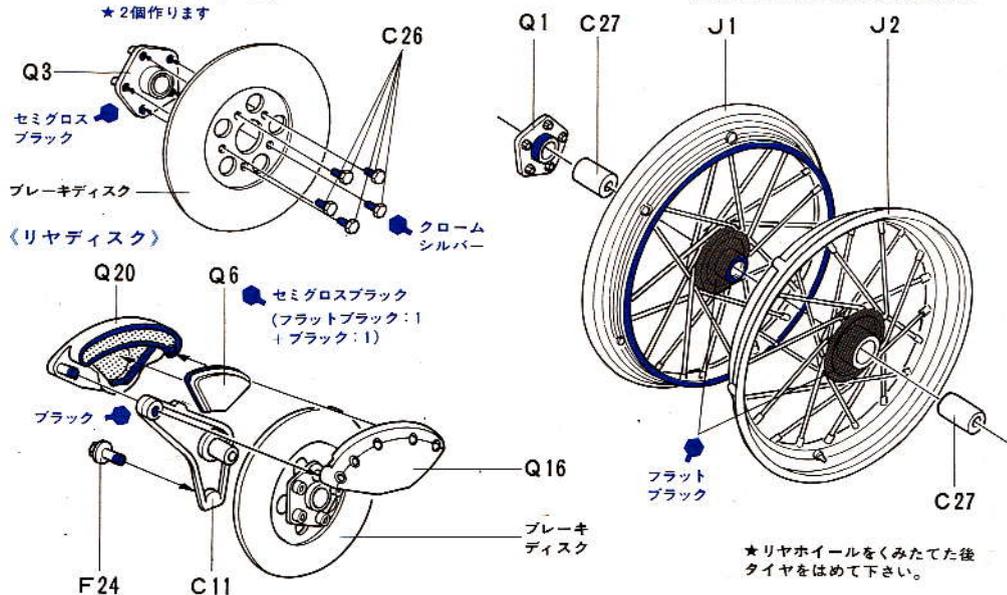
21 <リヤホイール完成断面図>



20 リヤホイールのくみため

<ブレーキディスク>

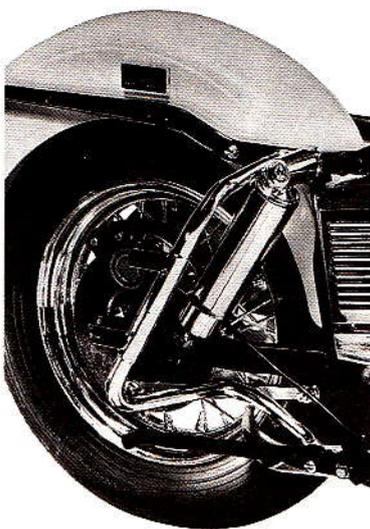
★2個作ります



★J1とJ2の左右の向きはありません

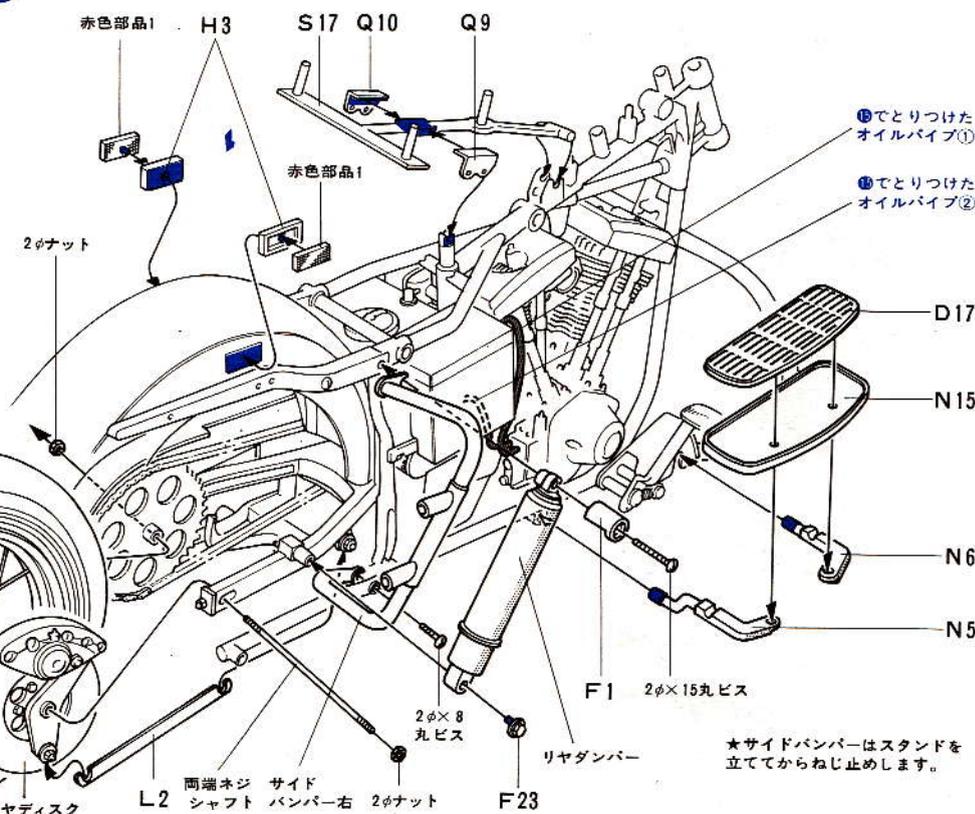
★リヤホイールをくみためた後タイヤをはめて下さい。

21 リヤホイールのとりつけ



リヤホイール

タイヤをはめます



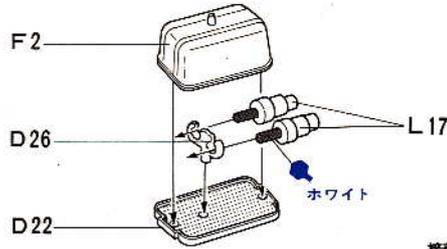
★サイドバンパーはスタンドを立ててからねじ止めます。

22 <スベアプラグケースのくみたて>

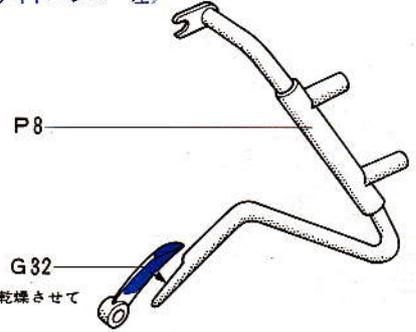


22 スベアプラグケースのくみたて

<スベアプラグケース>



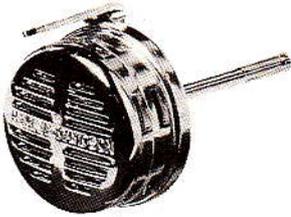
<サイドバンパー左>



接着後よく乾燥させて下さい。

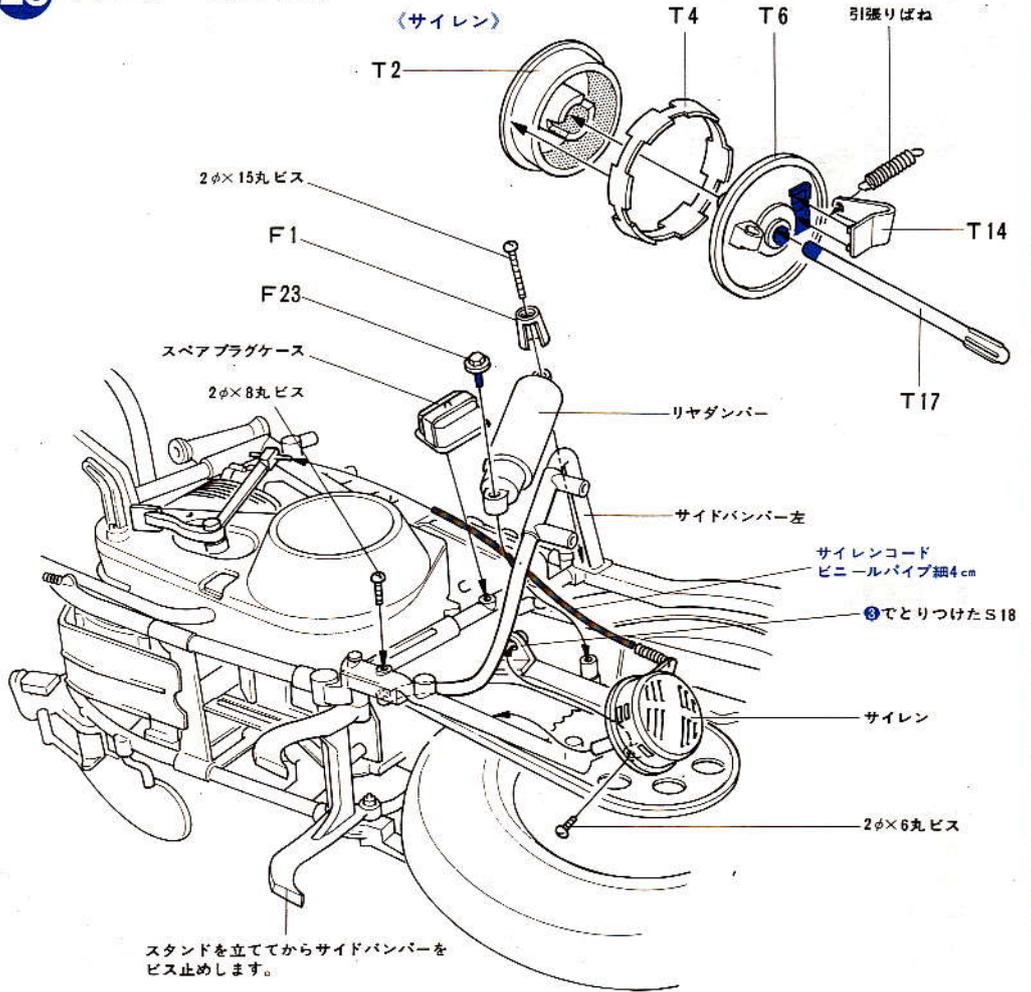
23 <サイドバンパー左のとりつけ>

<サイレン>



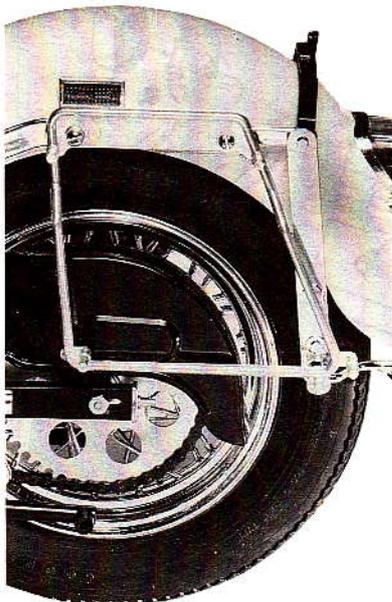
23 サイドバンパー左のとりつけ

<サイレン>

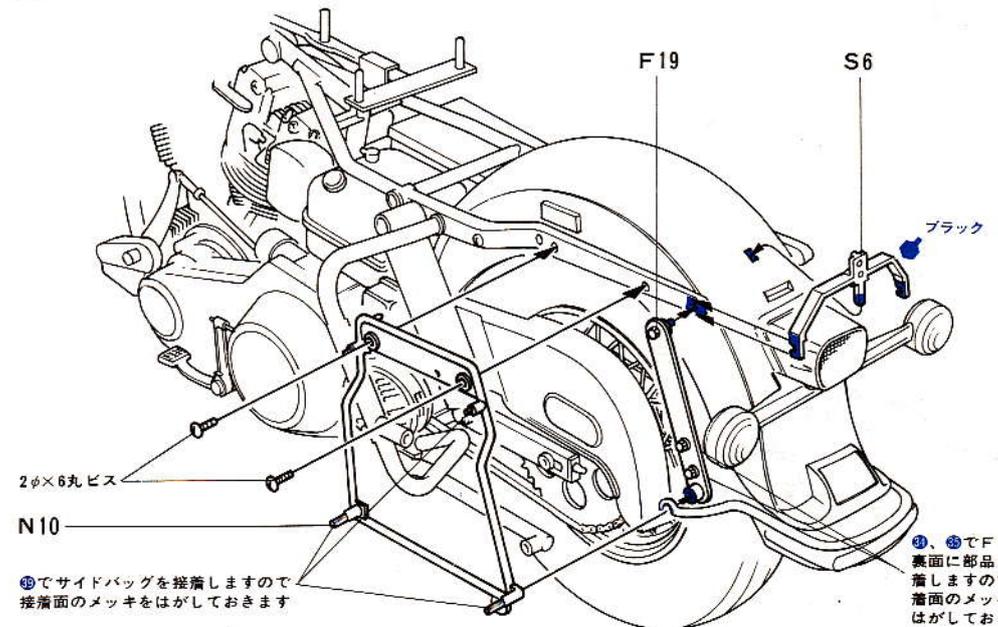


スタンドを立ててからサイドバンパーをビス止めます。

24 <サイドバックステー左側のとりつけ>



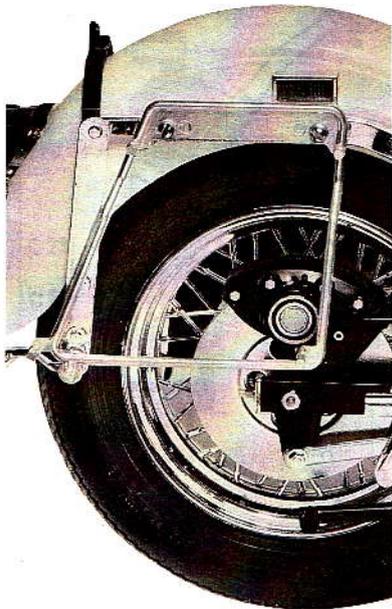
24 サイドバックステー左側のとりつけ



⑤でサイドバックを接着しますので接着面のメッキをはがしておきます

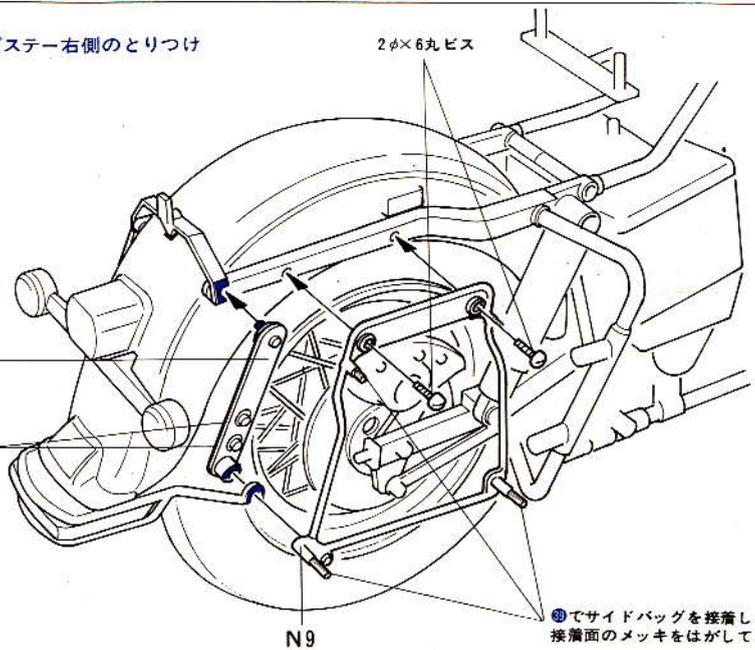
⑤、⑥でF19の裏面に部品を接着しますので接着面のメッキをはがしておきます。

25 〈サイドバッグステー右側のとりつけ〉



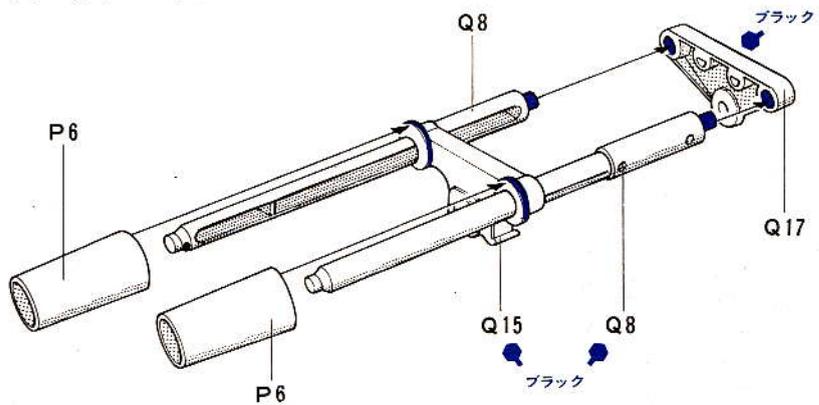
25 サイドバッグステー右側のとりつけ

④、⑤でF19の裏面に部品を接着しますので接着面のメッキをはがしておきます。



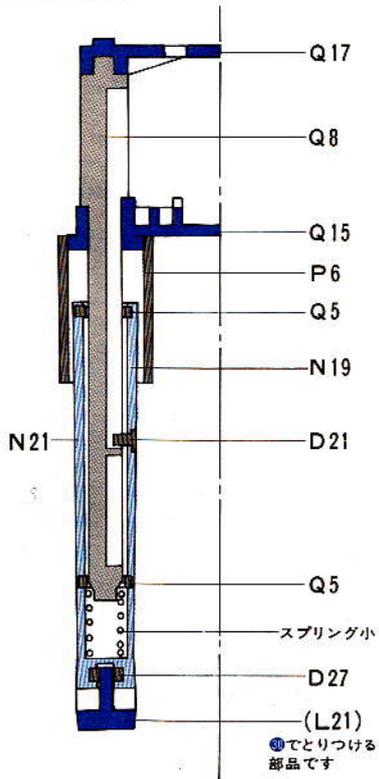
⑥でサイドバッグを接着しますので接着面のメッキをはがしておきます

26 インナーチューブのくみため



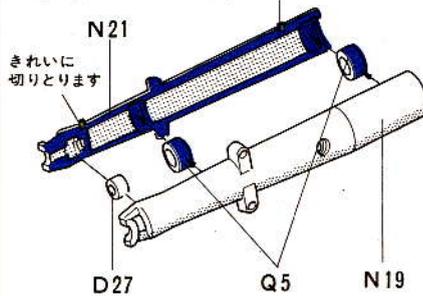
27 〈フロントフォークのくみため〉

〈完成断面図〉

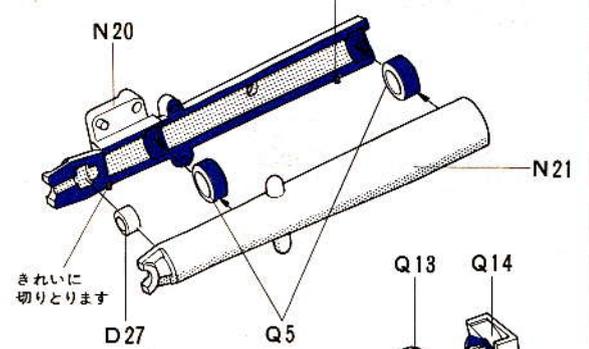


27 フロントフォークのくみため

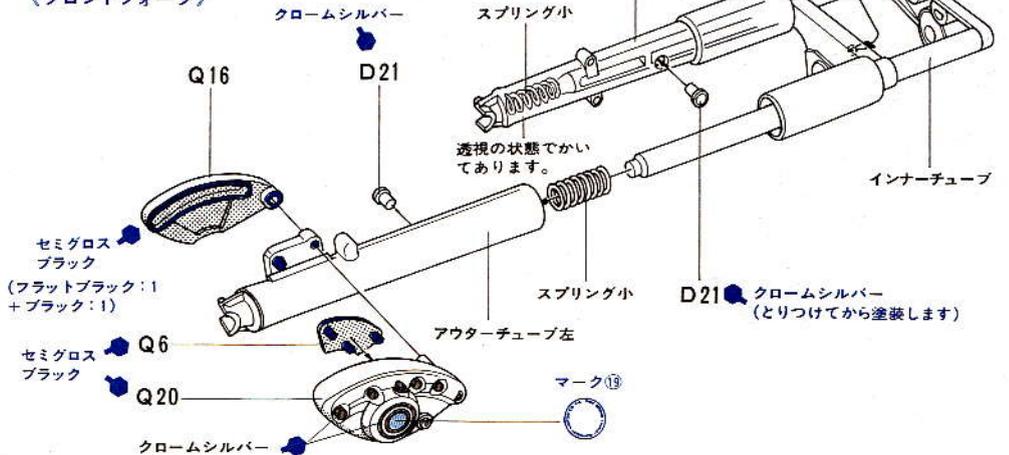
〈アウターチューブ右〉 きれいに切りとります



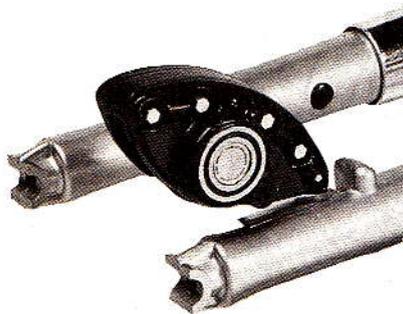
〈アウターチューブ左〉 きれいに切りとります



〈フロントフォーク〉



〈キャリパーQ16、Q20のとりつけ〉

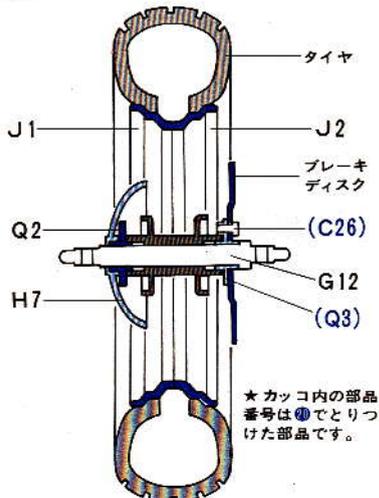


28 <フロントフェンダーのくみため>

<フロントバンパー>

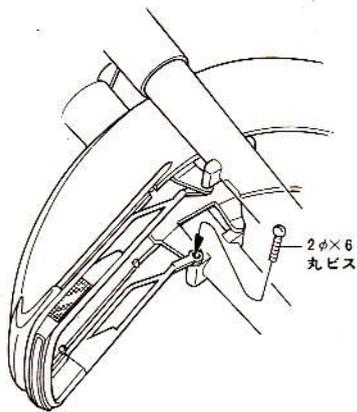


29 <フロントホイールのくみため>



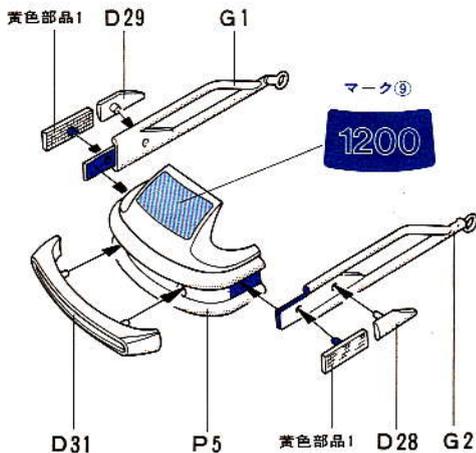
30 <フロントホイールのとりつけ>

<フェンダーのビス止め>

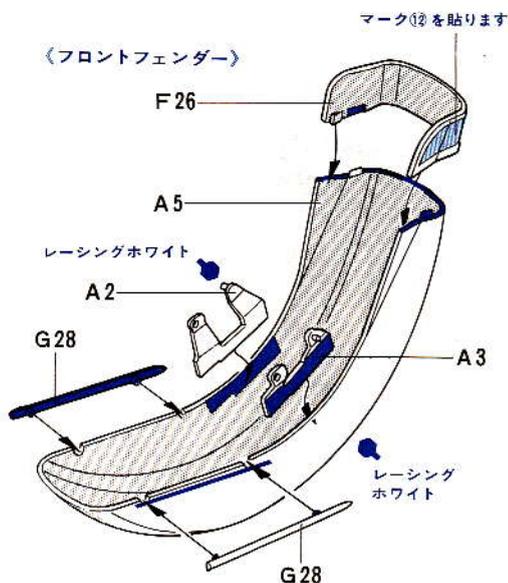


28 フロントフェンダーのくみため

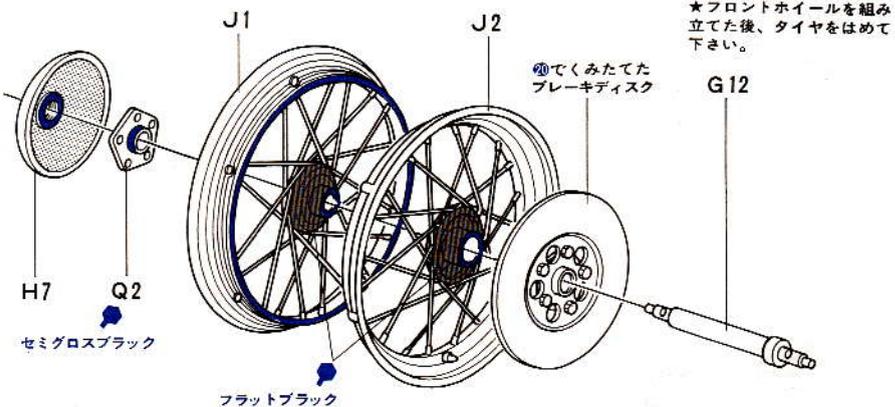
<フロントバンパー>



<フロントフェンダー>

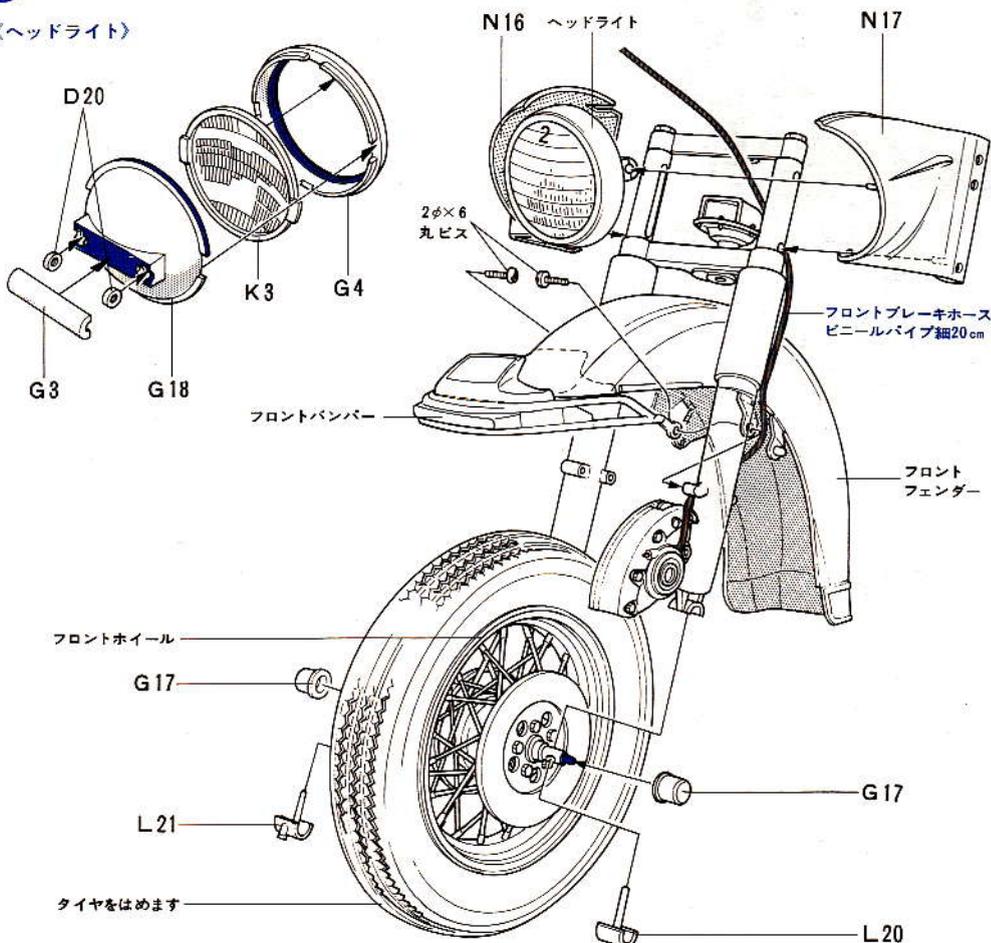


29 フロントホイールのくみため



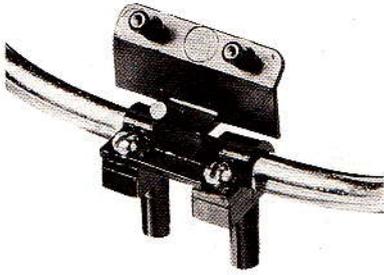
30 フロントホイールのとりつけ

<ヘッドライト>



**31** 〈ハンドルのくみため〉

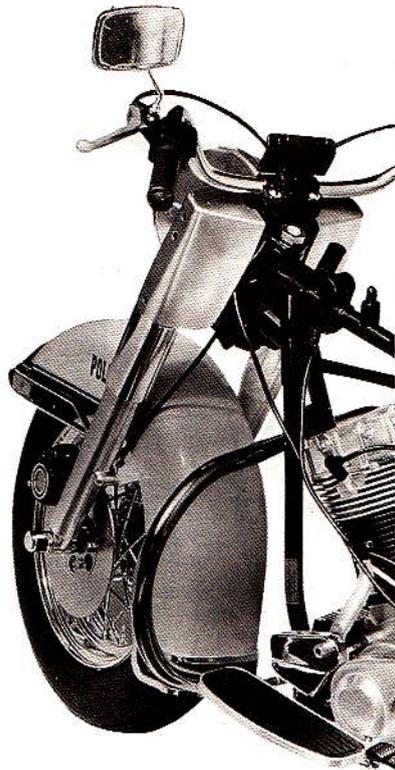
〈Q4、Q7、S10のとりつけ〉



〈マーク⑥の貼りつけ位置〉

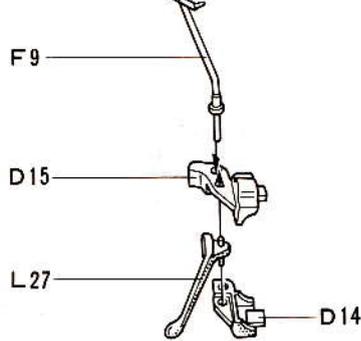


**32** 〈フロントフォークのとりつけ〉

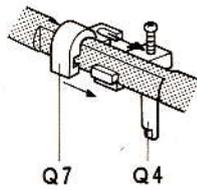


**31** ハンドルのくみため

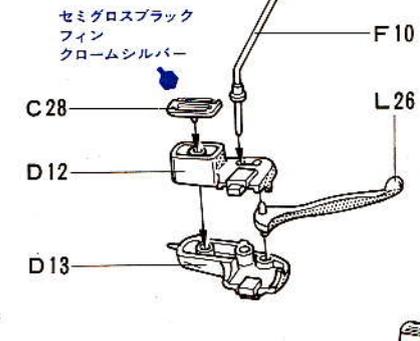
〈クラッチレバー〉



〈Q7のとりつけ〉



クラッチレバー



〈ブレーキレバー〉

2φ×6丸ビス

S10

ハンドルバー

D16

D3

Q7、Q4  
左図を参考に  
とりつけます

マーク⑥

ブレーキレバー

D3

**32** フロントフォークのとりつけ

バックミラー



バックミラー



〈バックミラー〉

★2個作ります

F20

F21

クロームシルバー C3

⑧でとりつけた  
フロントブレーキホース

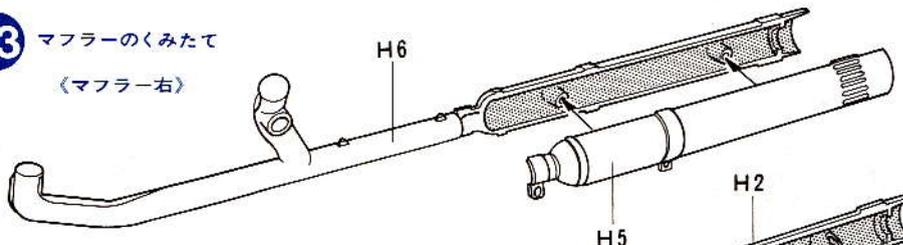
⑧でとりつけた  
クラッチワイヤー

フロントフォーク

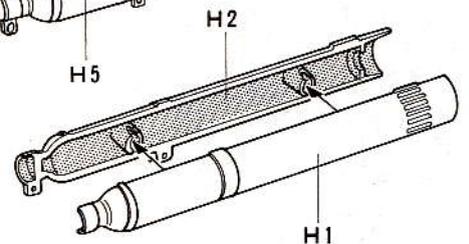
C4 ブラック

**33** マフラーのくみため

〈マフラー右〉



〈マフラー左〉



★マフラーは接触せずに組み立てます。

**PAINTING**

〈メッキの補修〉

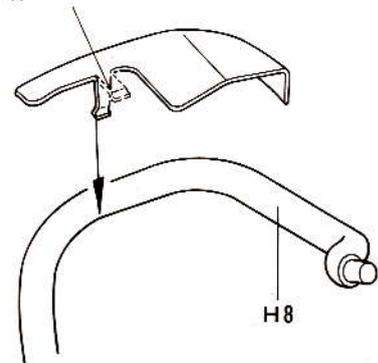
クロームシルバーを使って、メッキのはがれた所を補修して下さい。筆は穂先の長い細筆を使います。

★筆は穂先の長い細筆を使います。

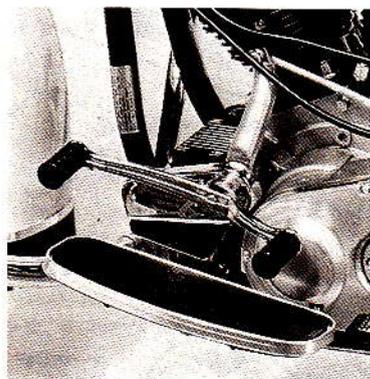


**34** 〈左側マフラーのとりつけ〉  
 〈エキゾーストカバーのとりつけ〉

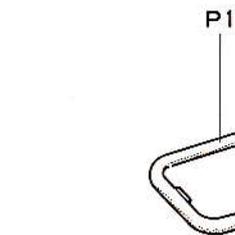
折り曲げてから押し込みます。



〈F27のとりつけ〉



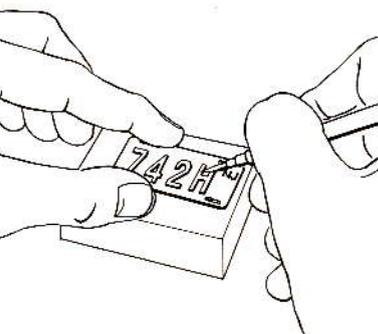
**36** 〈ナンバープレートのくみだて〉  
 〈塗装〉



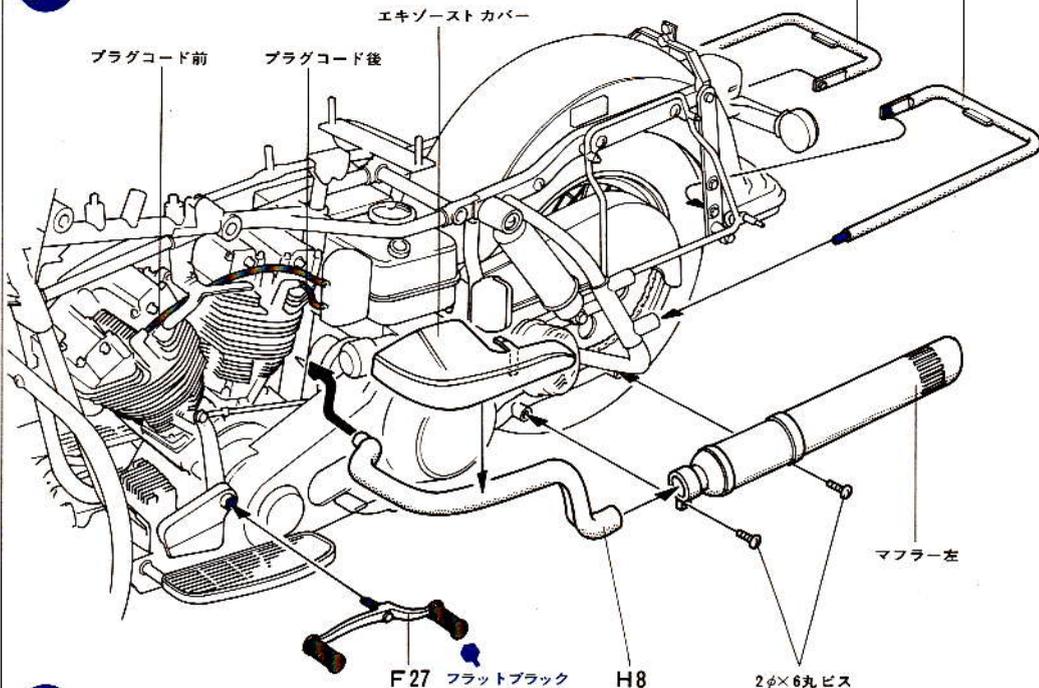
**PAINTING**

〈ナンバープレートの塗装〉

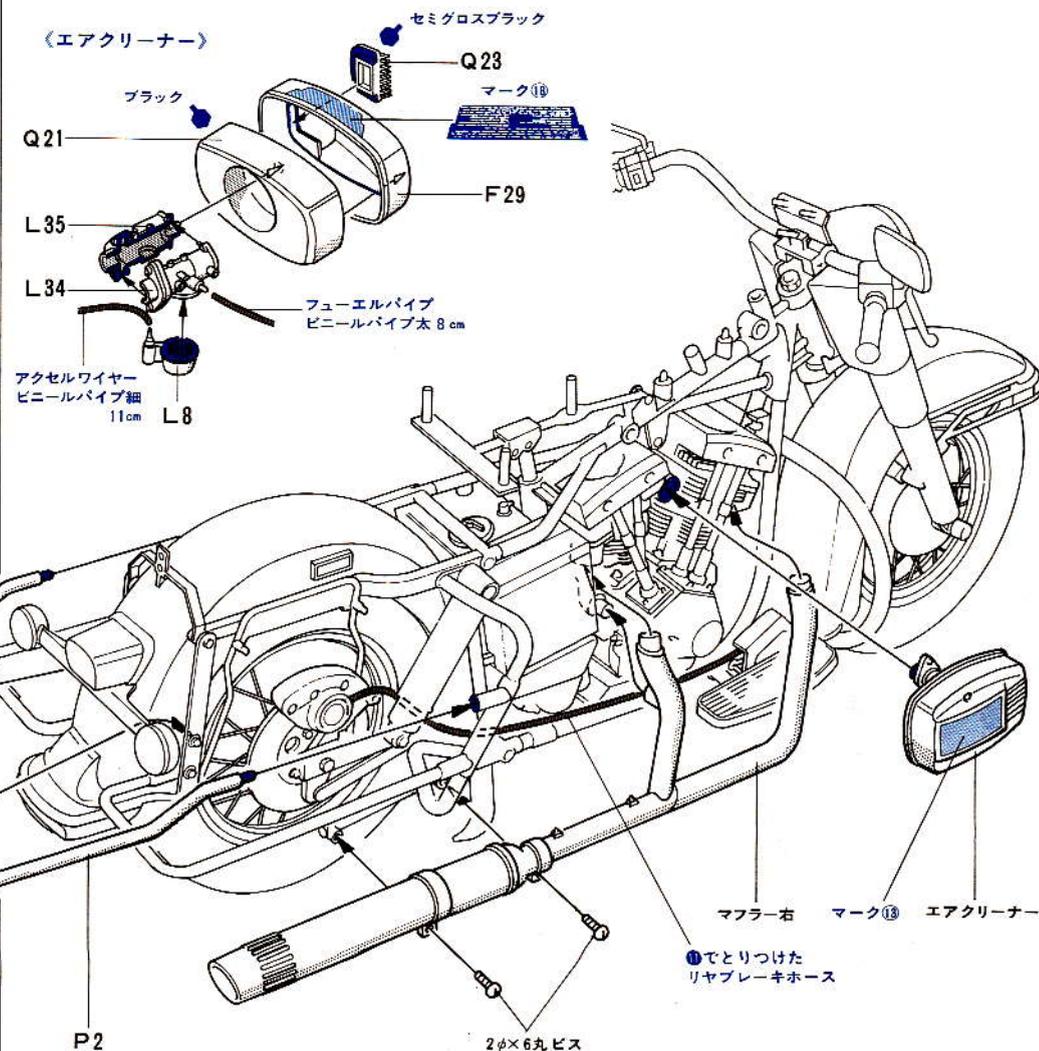
小さな台を使い、ナンバープレートを固定しておいて、ていねいに塗装するのがコツです。



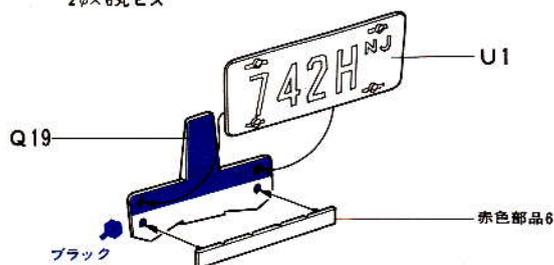
**34** 左側マフラーのとりつけ



**35** 右側マフラーのとりつけ



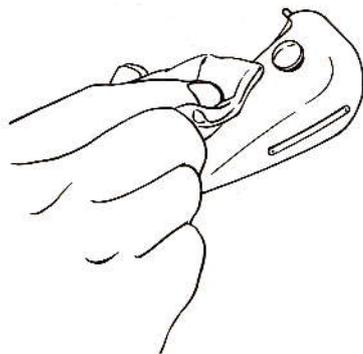
**36** ナンバープレートのくみだて



# PAINTING

## 〈塗装の仕上げ〉

塗料がよく乾燥した後、少量の模型用のコンパウンドやワックスで全体をみがけば、美しい仕上がりとなります。



## 38 〈フューエルタンクのくみため〉

〈左〉

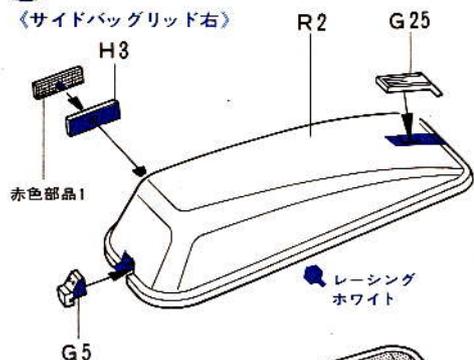


〈右〉

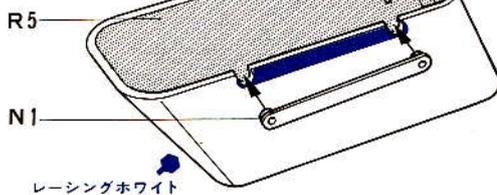


## 37 サイドバッグのくみため

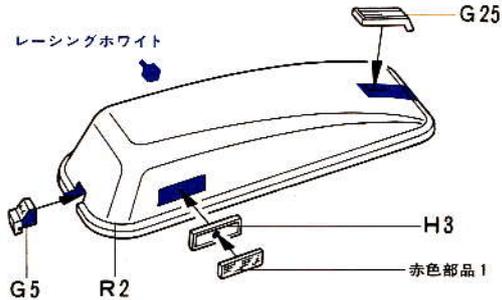
〈サイドバッグリッド右〉



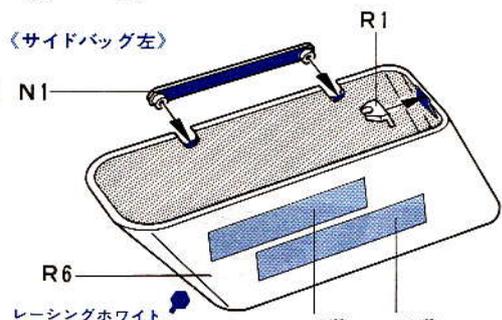
〈サイドバッグ右〉



〈サイドバッグリッド左〉



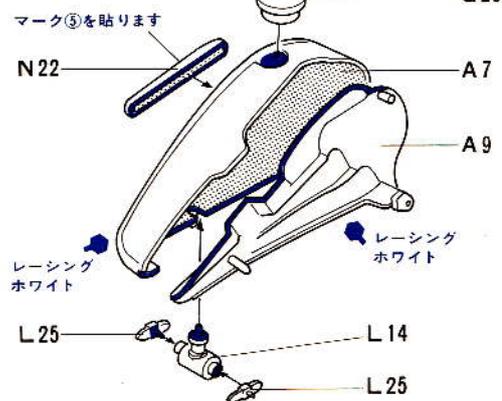
〈サイドバッグ左〉



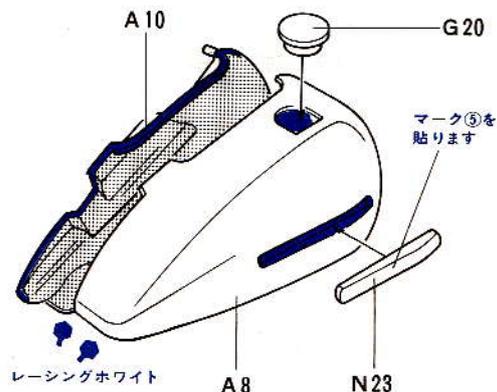
貼らない場合もあります。17ページを参考にして決めて下さい

## 38 フューエルタンクのくみため

〈フューエルタンク左〉

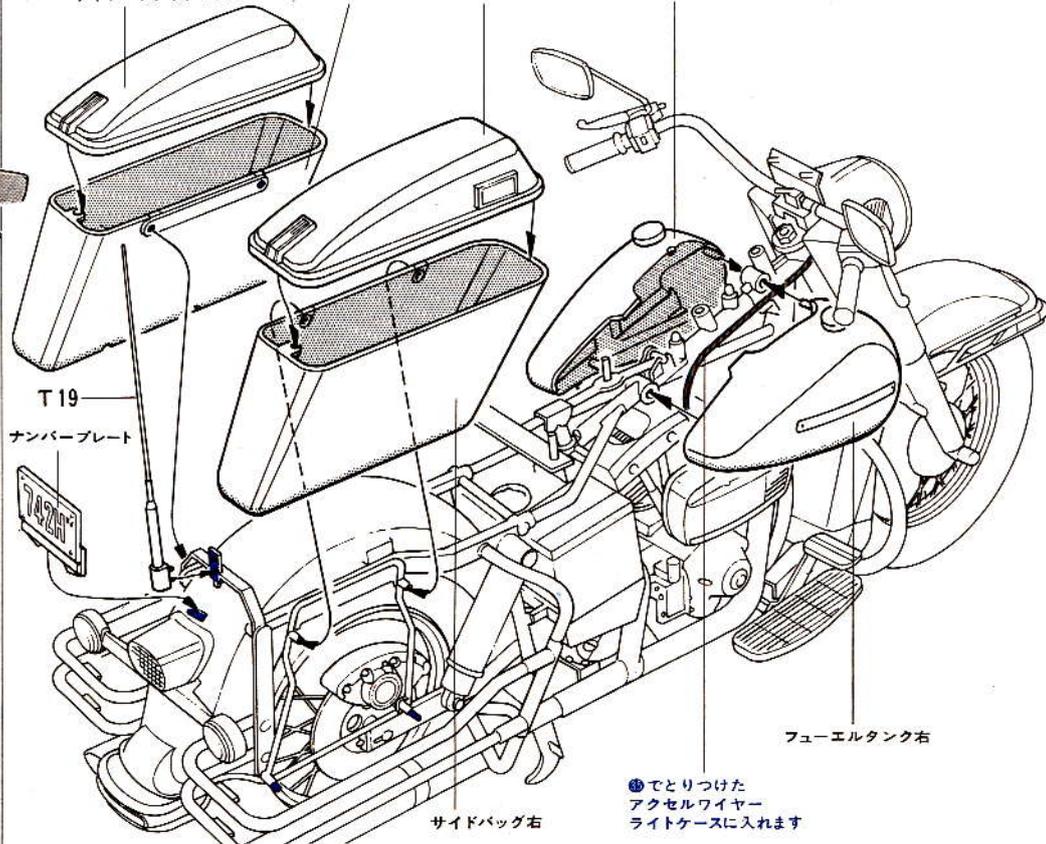


〈フューエルタンク右〉

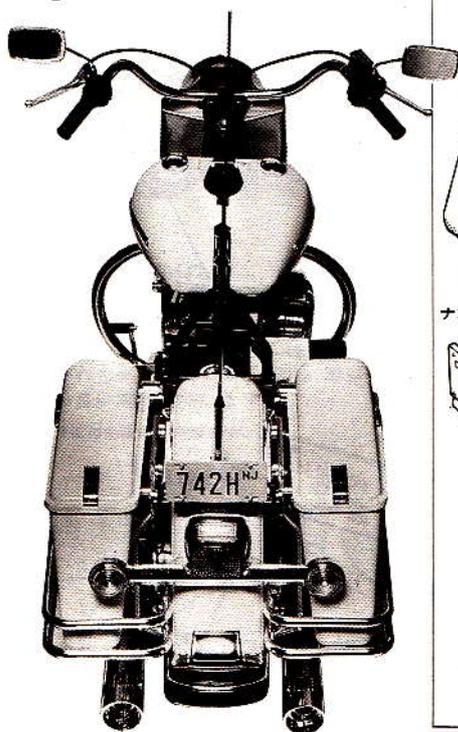


## 39 サイドバッグのとりつけ

サイドバッグリッド左 サイドバッグ左 サイドバッグリッド右 フューエルタンク



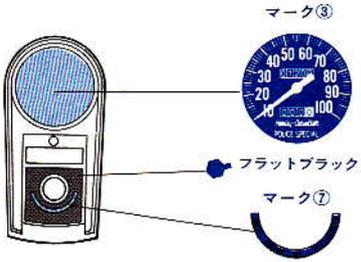
## 39 〈サイドバッグのとりつけ〉



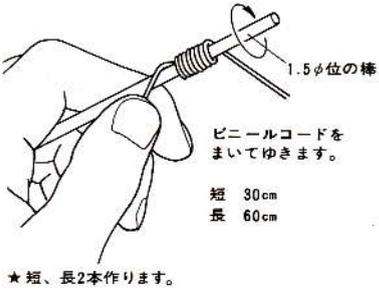
40 《装備品のくみたて》

スピーカーボックス、メーター、サドル、無線器等をくみたてます。消火器とヘルメットはアクセサリーとしてお使い下さい。又スピードメーターをくみたてるときデカールを忘れずにはって下さい。

スピードメーター



《らせんコードの工作》



《サドル》



《スピーカーボックス》



《スピードメーター》

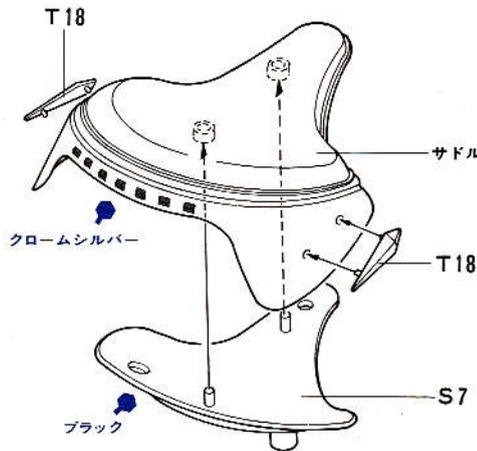


《消火器》

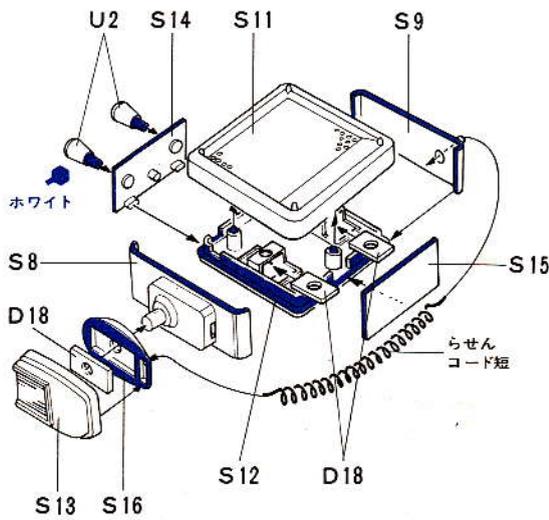


40 装備品のくみたて

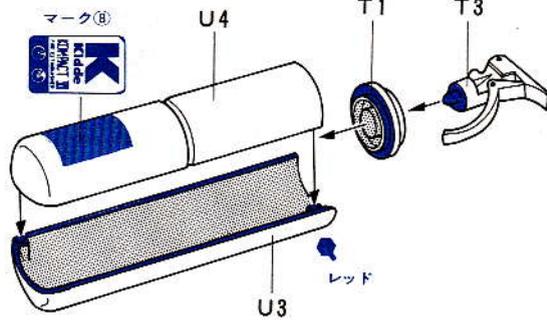
《サドルのくみたて》



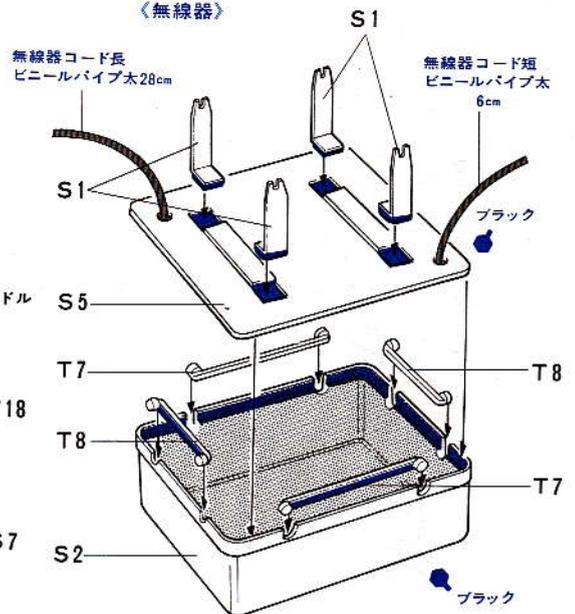
《スピーカーボックス》



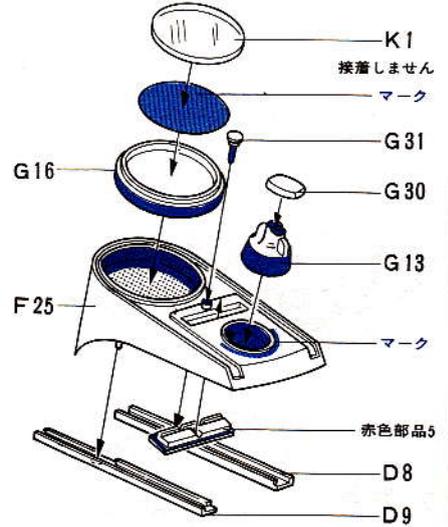
《消火器》



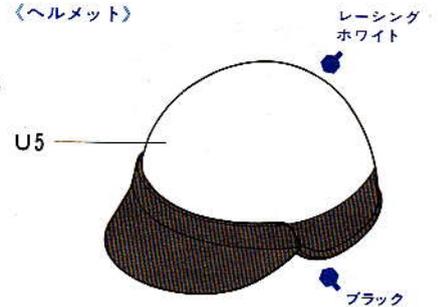
《無線器》



《スピードメーター》



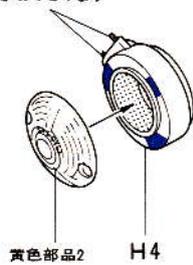
《ヘルメット》



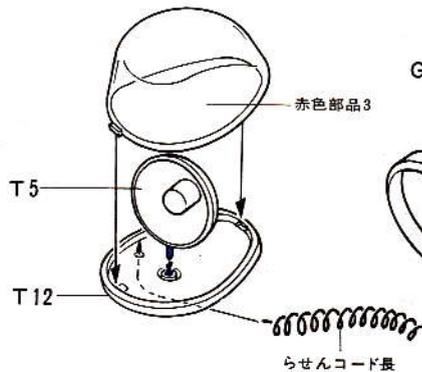
41 ランプのくみたて

《ウインカーランプ》

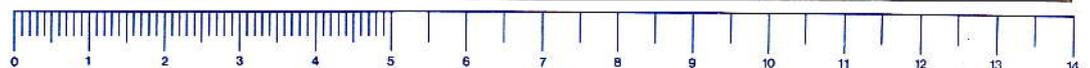
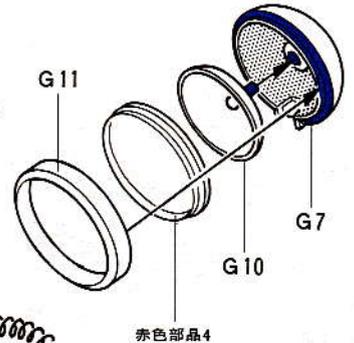
★2個作ります  
ピンを切りとります



《回転灯》

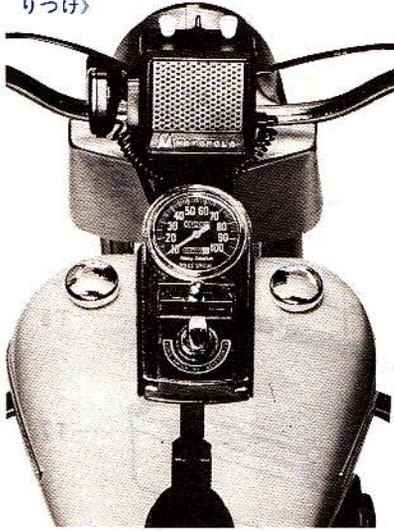


《スポットランプ》

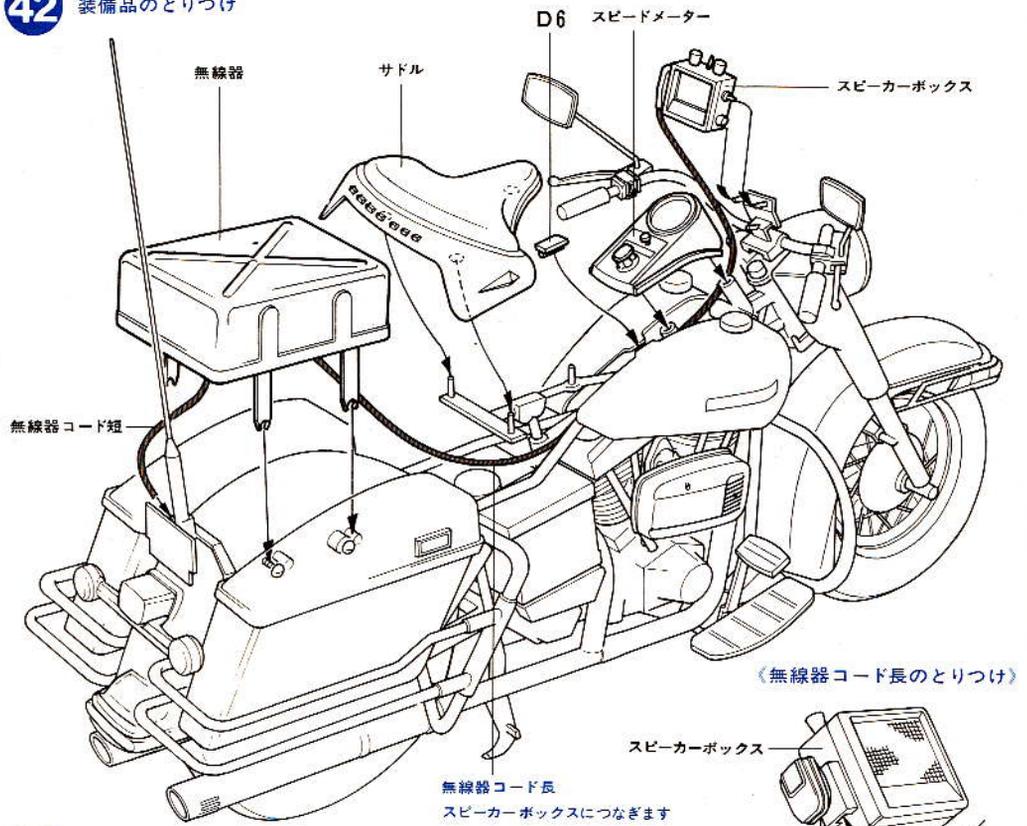


42 <装備品のとりつけ>

<スピーカーボックスとメーターのとりつけ>

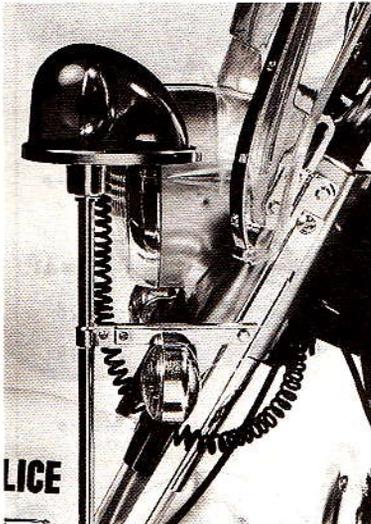


42 装備品のとりつけ

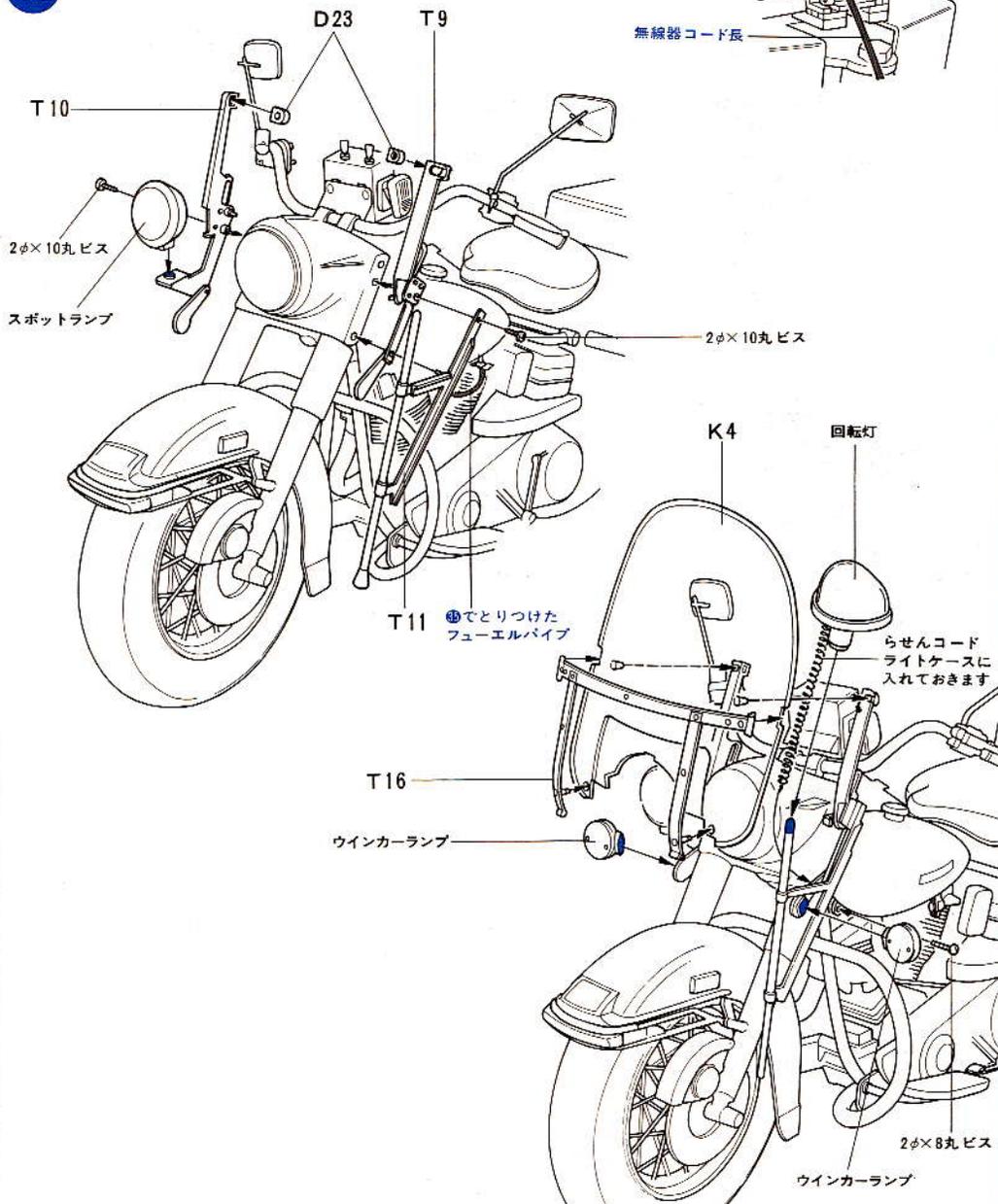


43 <風防のとりつけ>

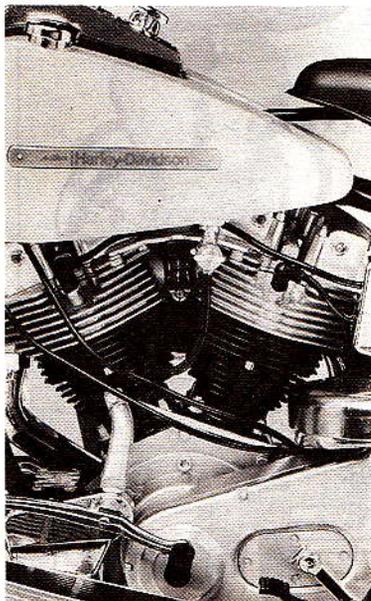
<回転灯のとりつけ>



43 風防のとりつけ



<フェューエルパイプのとりつけ>



# PAINTING & APPLYING DECALS

## 《ハーレーポリスタイプの塗装》

アメリカ合衆国内を走るハイウェイパトロール隊の白バイの塗装は各州によってさまざまな色わけで塗られています。タンク、フェンダー、サイドバッグは普通ホワイト一色で塗られていますが、中にはサイドバッグを黒く塗ったものや赤いストライプを走らせたものもあります。装備も各州まちまちでこれといった標準がありません。手軽にキットのプラスチック部品の成形色を生かしてタミヤカラーのクリアーだけで塗装するのもよいでしょう。なおスライドマークの上にクリアーを吹きつけることはさけて下さい。マークが傷みます。細部の塗装とマーキングは組み立て図中に示してあります。

## 《塗装》

塗装は各部分の色を変えるために塗るものではありません。各部分を塗装することでその部品のもつ形や働きをひきたたせるのです。モデルの重量感を出すために多種類の色を使いわけてみましょう。

## 《塗装する前に》

各部分の塗装する面のゴミや手の油、ほこり等をやわらかい布でふき落して下さい。中性洗剤で一度洗っておけば安心です。接着剤のはみだした所などは塗装ではかきません。カッターナイフや目の細かいサンドペーパーで直しておくこと。パーティングライン（部品や金具の合せ目）もヤスリをかけて修正して下さい。部品は組み立ててから塗装することがコツです。同じ色の部品は出来るだけ接着して、合せ目を修正してから塗装します。もちろん組み立てて筆のとどかなくなる部品はあらかじめ塗装しておいて下さい。

## 《塗装用具》

筆、ときざら、ウエス(ボロ布)を用意して下さい。筆はデザイン用の筆を使います。平筆と細筆を使いますが、共に毛質がやわらかく穂先の長い筆が使い良いでしょう。塗料を溶かすにはセトモノの皿を使います。画材店で梅皿を買って求めても良いでしょう。塗装がすんだ後、筆はラッカーンナーで塗料を落とし水洗してから保存します。

## 《塗料・溶剤を使用するときの注意》

プラスチックの表面は、塗料が着きにくい性質をもっています。静電気等で付着したホコリや手の油等もよく除いておくことが大切です。溶剤は少なめに使用するのがコツです。広い面積を筆塗りする時に

はたて、よこに平均に塗って下さい。塗料は必ずプラスチックモデル用を使用して下さい。また火気に十分注意して下さい。

## 《使用する塗料》

タミヤからは手軽に使えるスプレー式のタミヤカラーと筆塗り用エナメル・アクリル塗料が発売されています。色の正確なタミヤカラーをお使い下さい。

スプレー式タミヤカラーより

レーシングホワイト	TS7
ブラック	TS14

筆塗り用エナメル・アクリル塗料より

ブラック	X1
レッド	X7
レモンイエロー	X8
ガンメタル	X10
クロームシルバー	X11
フラットブラック	XF1
フラットアルミ	XF16

## 《スプレー式カラーの使い方》

新聞紙、ボール紙、部品の入っていたビニール袋、ボロ布、セロファンテープ等を用意して下さい。風のない日陰で新聞紙を用意してはこりの立たないようにしてから塗装します。スプレー缶を上下によく振って缶の中の塗料をかきまぜてから塗料の混ざり具合を見るためにためし吹きして下さい。ためし吹きは、不用のボール紙やお菓子の箱などを使い、塗装するボディから20cmぐらい放して吹付けます。スプレー缶を同じ方向にすばやく動かして、シュッシュッと吹付けて下さい。塗装するボディより一回り大きなボディを吹付ける気持で塗装するのがコツです。

## 《スライドマークのはりかた》

1-《マークを切りはなす》  
ほりたいマークをハサミで切りとります。必ずニス(透明な)部分を

をきれいに切りとります。

## 2-《マークを水にひたす》

マークの台紙が弓状にまがった所で水からひき上げタオル等の布の上におきます。

## 3-《マークをはる》

1-2分してから紙のはしを手で持ち、マークをスライドさせて、モデルに移して下さい。

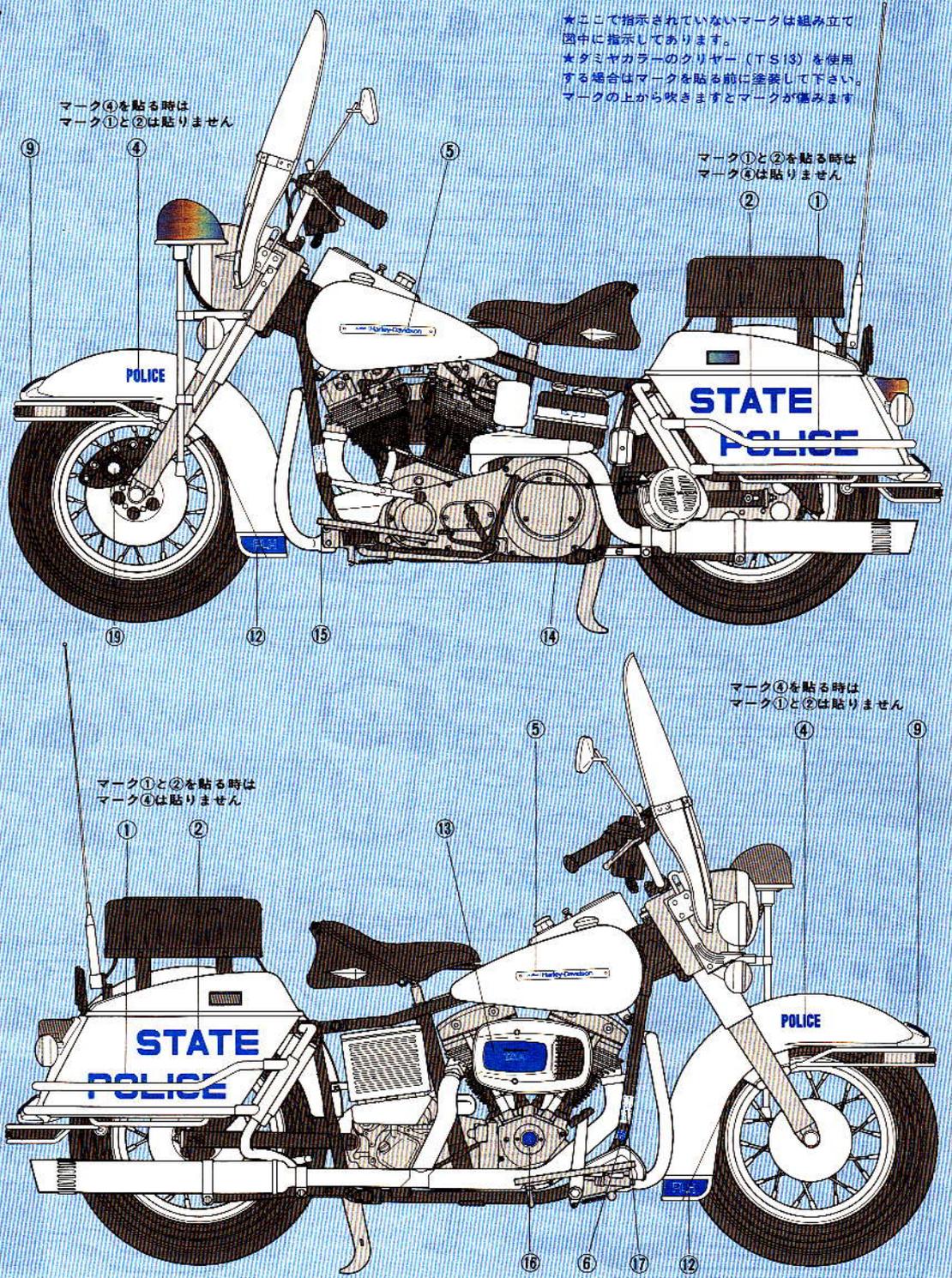
## 4-《マークを正しい位置に移す》

指に少し水をつけてマークをぬらしながら正しい位置に移します。

## 5-《布で水分をとる》

タオル等のやわらかい布でマークの内側の気泡をおし出しながら、おしつけるようにして余分な水分をとります。

マークをはる場所が曲面や凹凸している時は、むしろタオルでマークをおさえて下さい。マークがモデルの形になじみやすくなります。



★ここで指示されていないマークは組み立て図中に指示してあります。  
★タミヤカラーのクリアー(TS13)を使用する場合はマークを貼る前に塗装して下さい。マークの上から吹きますとマークが傷みます

マーク①と②を貼る時はマーク③は貼りません

マーク④を貼る時はマーク①と②は貼りません

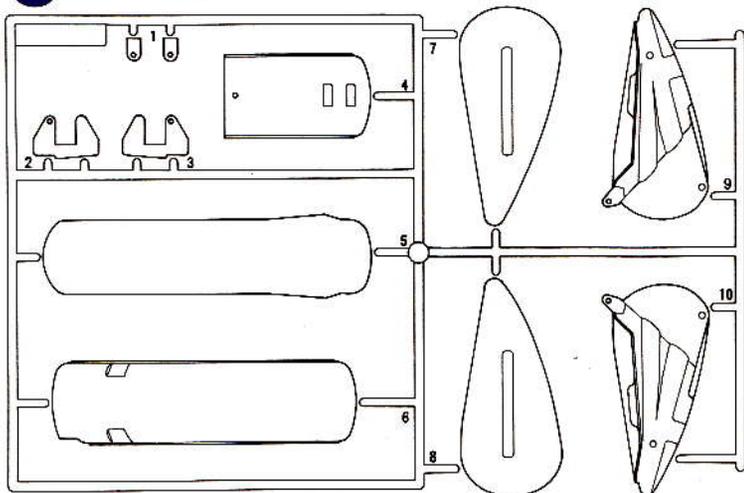
マーク④を貼る時はマーク①と②は貼りません

マーク①と②を貼る時はマーク③は貼りません

# PARTS

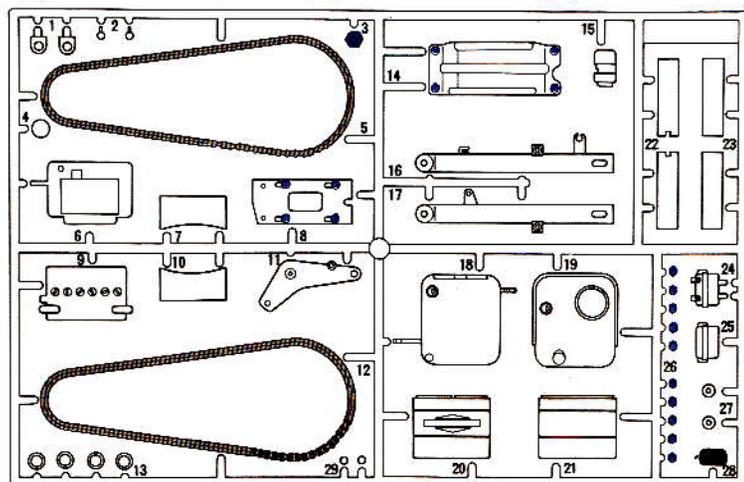
## A 部品

レーシング  
ホワイト



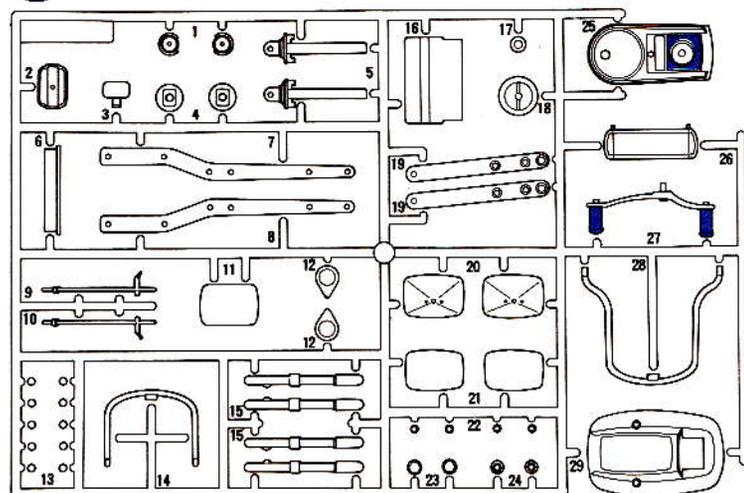
## C 部品

ブラック  
ガン  
メタル  
クローム  
シルバー  
セミグロス  
ブラック

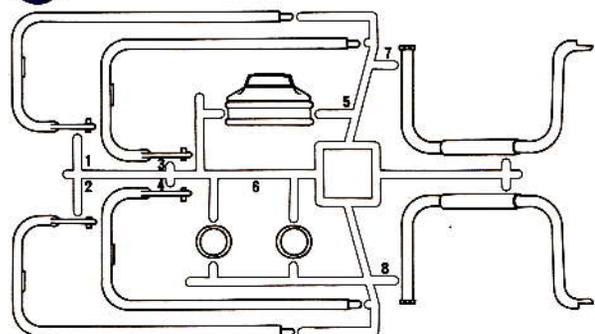


## F 部品

フラット  
ブラック

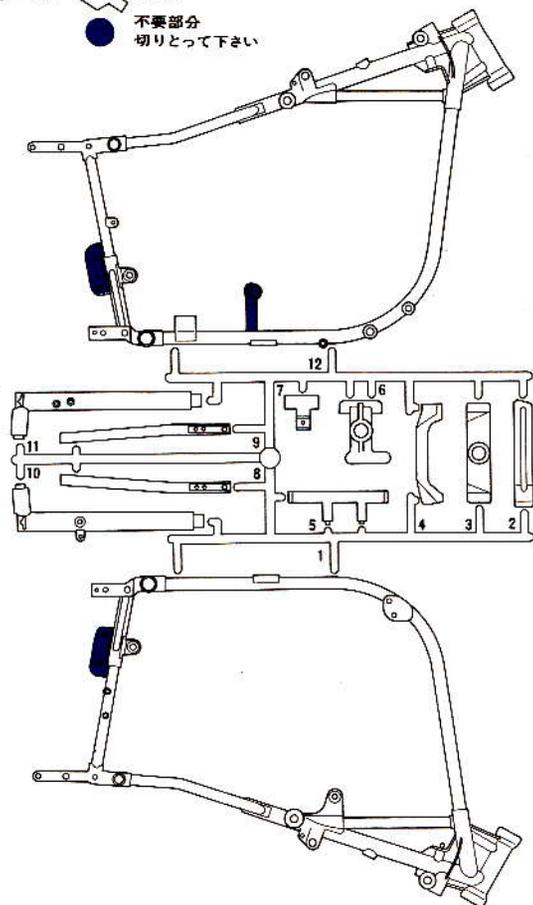


## P 部品



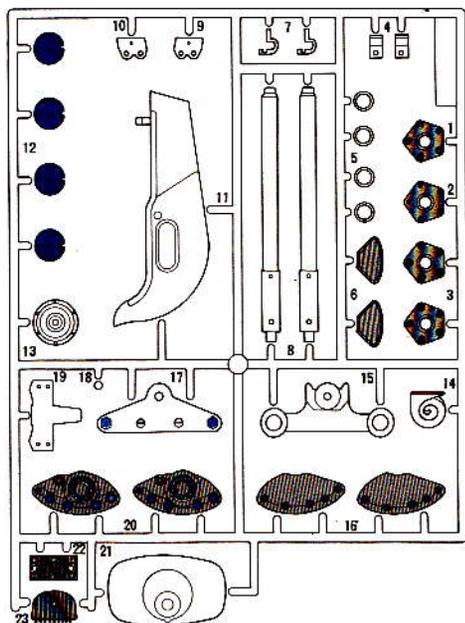
## B 部品

ブラック  
不要部分  
切りとって下さい

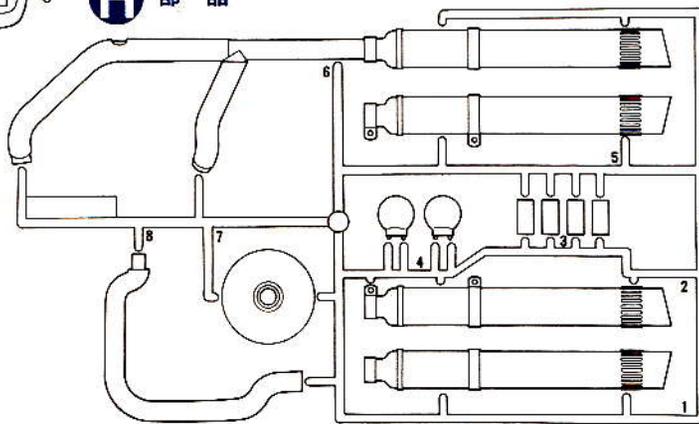


## G 部品

ブラック  
クローム  
シルバー  
セミグロス  
ブラック  
不要部品

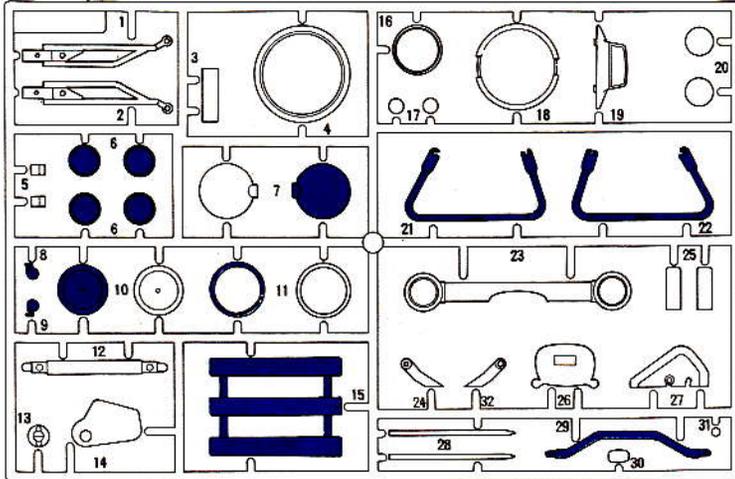


## H 部品

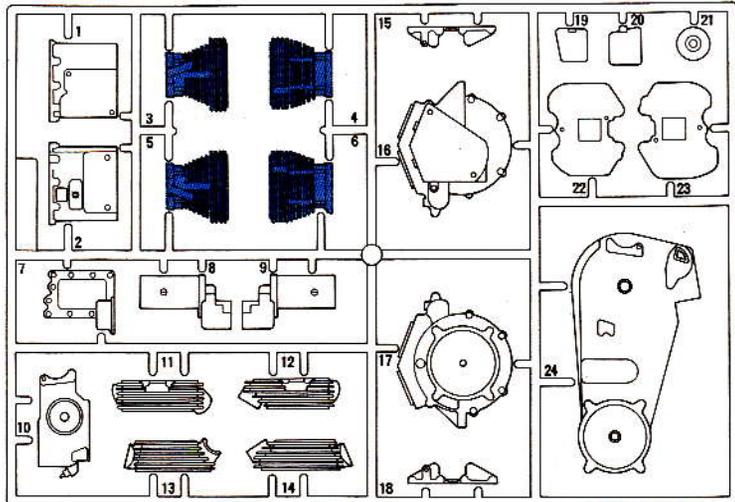


# PARTS

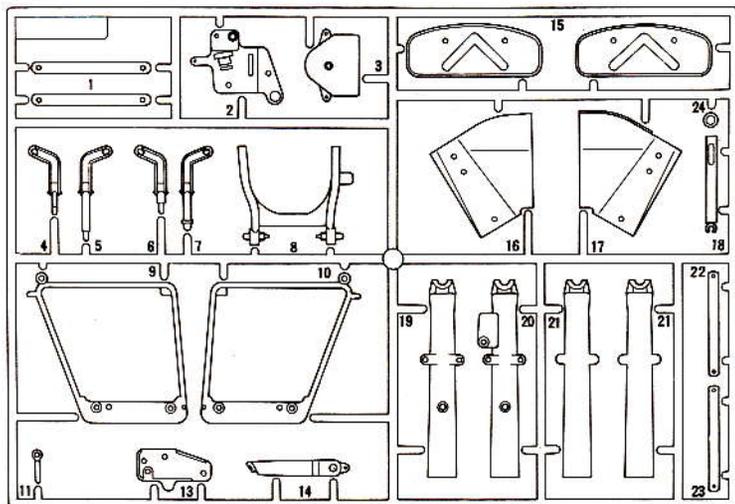
**G** 部品 ● 不要部品



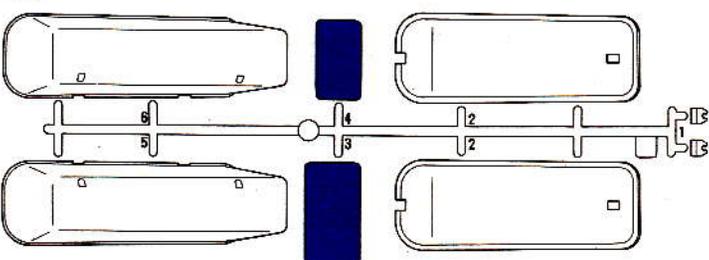
**E** 部品 フラット アルミ ● ブラック



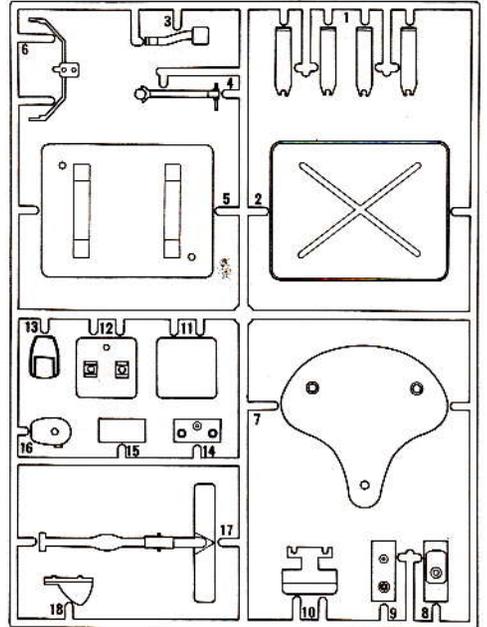
**N** 部品



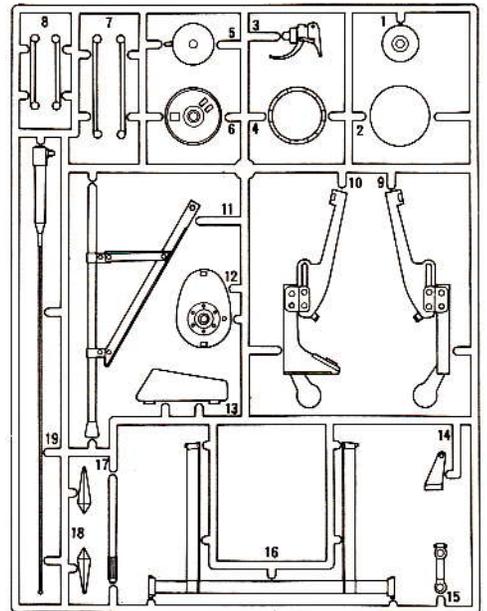
**R** 部品 レーシング ホワイト ● 不要部品



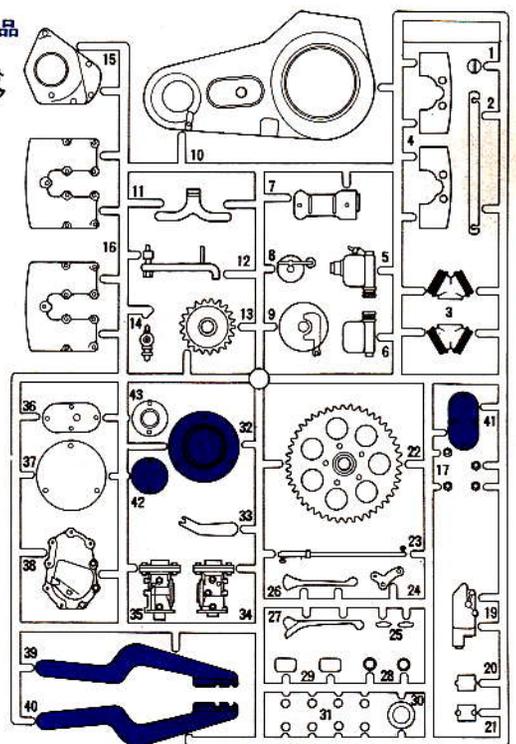
**S** 部品  
● ブラック



**T** 部品

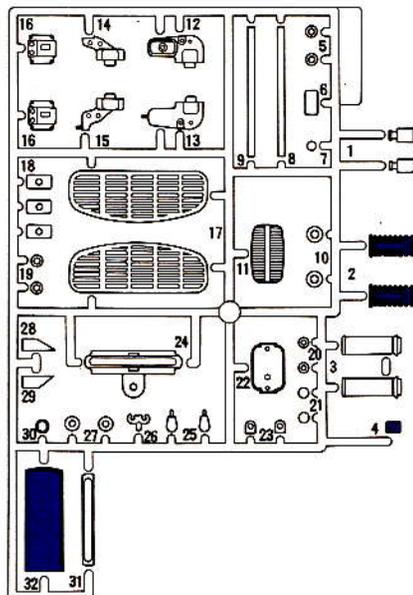


**L** 部品  
● フラット  
● ブラック  
● 不要部品

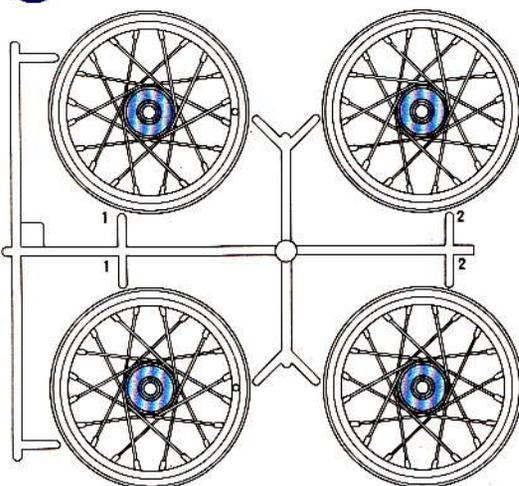


# PARTS

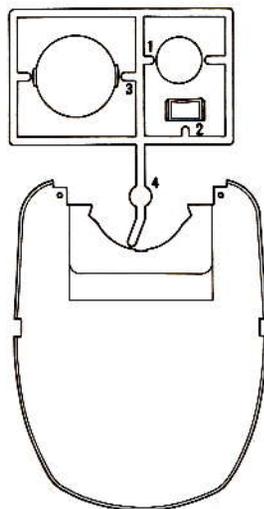
## D 部品 ● 不要部品



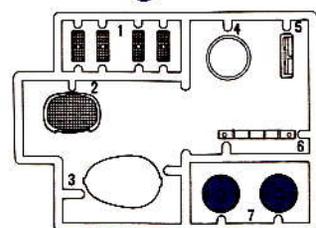
## J 部品 フラットブラック



## K 部品

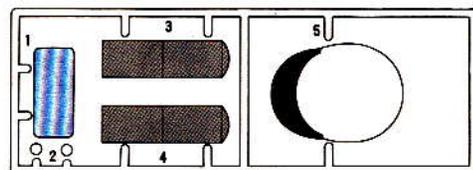


## 赤色部品 ● 不要部品



## U 部品

- レーシング ホホワイト
- レッド
- ブラック
- レモンイエロー



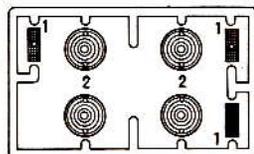
★部品請求にはこのカードが必要です。  
部品請求をなさる方はあなたの氏名、住所、  
郵便番号（できれば電話番号）を1字ずつは  
っきりとお書き下さい。

## M 部品 (プリスターパック入り)

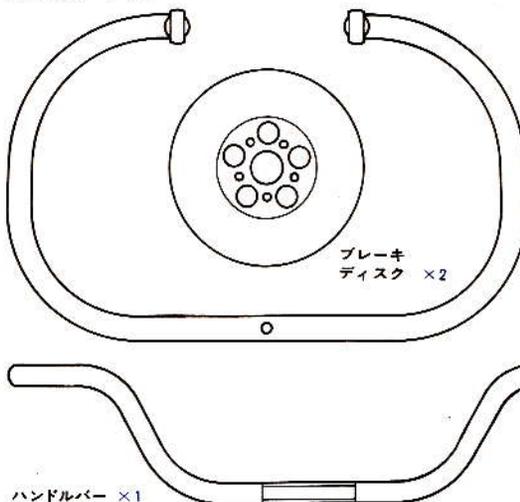
ビニールパイプ太.....×1    ビニールコード.....×1  
ビニールパイプ細.....×1    タイヤ.....×2

## 黄色部品 ● 不要部品

● 不要部品

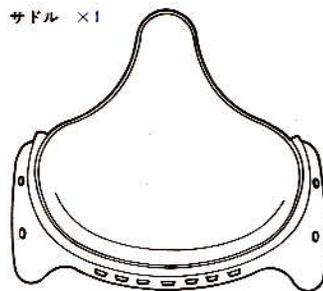


セフティガード ×1

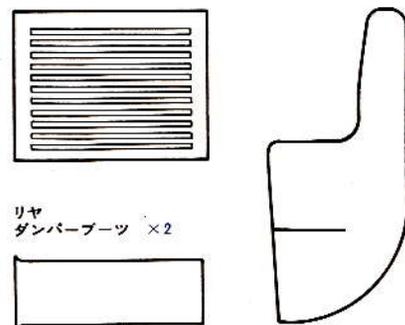


ハンドルバー ×1

サドル ×1

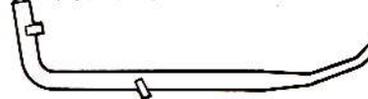


バッテリーカバー ×1    エキゾーストカバー ×1



リヤダンパーブーツ ×2

サイドスタンド ×1



# Harley-Davidson® POLICE BIKE

1/6 ハーレーポリス(新)

部品を紛失したり、破損なされた方は、  
このカードの必要部品を丸でかこみ代  
金を現金書留又は定額為替で田宮模型  
アフターサービス係までお申し込み下  
さい。

お問合せ電話番号 03-3899-3765(東京)  
054-283-0003(静岡)

A 部品	800円
B 部品	600円
C 部品	600円
D 部品	550円
E 部品	600円
F 部品	750円
G 部品	700円
H 部品	700円
J 部品	500円
K 部品	400円
L 部品	700円
N 部品	700円
P 部品	600円
Q 部品	650円
R 部品	500円
S 部品	600円
T 部品	650円
U 部品	400円
赤色部品	400円
黄色部品	400円
タイヤ(1本)	450円
ビス袋詰	200円
スプリング袋詰	200円
ブレーキディスク(2枚)	200円
ハンドル	300円
セフティガード	350円
サイドスタンド	200円
バッテリーカバー	300円
エキゾーストカバー	200円
リヤダンパーブーツ(2コ)	200円
パイプセット	200円
マーク	250円
サドル	350円
説明図	400円

0493

ITEM 16016

上記の価格は予告なく変更となる場合があり  
ますので御了承下さい。

**田宮模型**  
静岡市恩田原3-7 千422

### 《スプリング袋詰》 (原寸大)



×2



×1

スプリング大

スプリング中



×2

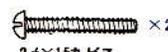
スプリング小



×3

引張りバネ

### 《ビス袋詰》(原寸大)



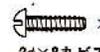
×2

2φ×15丸ビス



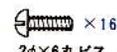
×2

2φ×10丸ビス



×6

2φ×8丸ビス



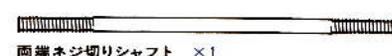
×16

2φ×6丸ビス



×2

2φナット



両端ネジ切りシャフト ×1